

平成22年度 小平市いきいき協働事業



はじめよう！まちを元気にする仕事！

CBガイドブック

小平市コミュニティビジネス調査報告書



小平市市民生活部産業振興課

NPO法人Mystyle@こだいら

平成22年度 小平市いきいき協働事業



はじめよう！まちを元気にする仕事！

CB

ガイドブック

小平市コミュニティビジネス調査報告書

小平市市民生活部産業振興課

NPO法人Mystyle@こだいら

はじめに

小平市における市民提案にもとづく協働事業、「小平市いきいき協働事業」は平成 22 年度から事業をスタートしました。NPO 法人Mystyle@こだいらの提案による「小平市コミュニティビジネス支援事業」は、小平・環境の会の「地産地消・資源循環モデル事業」とともに、この制度による事業の第一号ということになります。

コミュニティビジネス（CB）は、「地域が抱える課題を、地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業」とされ、行政や従来の企業活動ではなかなか対応できない地域のニーズに応えようとするものです。コミュニティビジネスが展開することにより、地域の課題の解決のみならず、地域の資源を活かした新たな産業や地域ブランド、雇用を生み出し、地域の活性化につながるものとして、注目されております。

「小平市コミュニティビジネス支援事業」では、コミュニティビジネスに関心をもつ市民の方に向けた入門講座・起業講座を実施するとともに、小平市の現状を捉え、コミュニティビジネスの可能性を開くための調査を行っています。

事業を提案・実施したMystyle@こだいらは、中間支援団体として、コミュニティビジネスに関わる各地の個人・団体とネットワークを広げながら、講座・研修会などの運営の実績を重ねている団体であり、今回の協働事業は、小平市の地域にある社会資源を発掘する第一歩になるものと考えております。多くの関心を持つ市民の方々に、この報告書を活用していただくことを期待しております。

平成 23 年 3 月

小平市市民生活部産業振興課長

竹内 誠一郎

目次

目次	1
第1章 調査の目的と概要	4
1-1 調査の目的	4
1-2 調査対象および方法	4
第2章 コミュニティビジネスの概要	6
2-1 コミュニティビジネスとは	6
2-2 コミュニティビジネスの背景	10
第3章 データで見る小平市の現状とコミュニティビジネス関連の動き	14
3-1 データで見る小平市の現状～小平市第2次行財政再構築プランより～	14
3-2 小平市におけるコミュニティビジネス関連の動き	15
第4章 エリア別小平市の地域課題・地域資源 ～グループインタビューより～	20
4-1 グループインタビューの目的	20
4-2 グループインタビューの方法	20
4-3 エリア別小平市の地域課題・地域資源	21
4-4 グループインタビューから見えてきたこと	41
第5章 小平市の満足度・ここが足りない・ここが自慢 ～アンケートより～	43
5-1 アンケート調査の概要	43
5-2 アンケート結果	44
第6章 小平市のCB事例から見る起業プロセスと支援ニーズ	50
6-1 開業15年新たな展開 カフェラグラス	50
6-2 起業を実現・さらなる発展に向けて 学園坂タウンキッチン	53
6-3 孤独な母親が外とつながり輝く場を提供 ライオンハウス	56
6-4 起業にチャレンジ！コミュニティビジネス起業講座受講生 終了3ヵ月後アンケートより	59
6-5 ヒアリングから見える支援ニーズ	63
第7章 CB起業家のためのサポートネットワーク	65
7-1 コミュニティビジネスと地域ネットワーク	65
7-2 CB起業ははじめの一步ストーリー	65
7-3 さまざまな創業サポート一覧	70
第8章 全国のコミュニティビジネス活性化の動き	73

8-1 コミュニティビジネス活性化策の現状	73
8-2 中間支援事例 港南台タウンカフェ（横浜市港南区）	77
8-3 中間支援事例 NPO 法人 ACOBA（我孫子市）	80
参考資料① 小平市いきいき協働事業 講座実施報告	85
コミュニティビジネス入門講座.....	85
コミュニティビジネス起業講座.....	88
参考資料② アンケート自由記述.....	93
①小平市の満足度を10点に近づけるためには、何があったらいいですか。	93
②日常生活で、これは便利、オススメと小平市内の友人にクチコミしたい小平市内の店・サービスを教えてください。	95
③市外の友人が遊びに来たときに案内したい小平市内のおすすめの場所はどこですか。	98

第 1 章

調査の目的と概要

-
- 1-1 調査の目的
 - 1-2 調査対象および方法

第1章 調査の目的と概要

1-1 調査の目的

この「小平市コミュニティビジネス調査」には、大きく分けて二つの目的があります。

ひとつは、小平市内でコミュニティビジネス（CB）をスタートすることを目指す方たちに対して、地域情報、市民ニーズなどのマーケティング資料としても活用できるものを提供し、ヒントとして活用していただくことです。こうした情報を活用することによって、小平の実態に合ったコミュニティビジネスをスタートしていただくことを目指しています。

もうひとつは、国やコミュニティビジネス先進地域の取組み、先行してコミュニティビジネスで起業した事例の調査をとおして、今後、起業を考える方たちが必要とする支援策を調べ、小平における推進の方策の参考資料として活用することを目指しています。

1-2 調査対象および方法

1. 小平市民を対象にしたグループインタビュー

小平市内を地域特性によって 10 のエリアに分け、それぞれのエリア別にグループインタビューを実施。地域ごとの課題、地域ごとの資源を、そこに暮らす市民の率直な意見から抽出し、コミュニティビジネスの「種」となる市民ニーズをつかみます。

2. 小平市民対象にアンケート調査

小平市民 100 名を対象に紙媒体および Web 上でアンケート調査を実施。小平市の暮らしの満足度、不足している点、満足している点などについての意識調査を行い、今後のコミュニティビジネスの展開へのヒントをさがります。

3. 小平市のコミュニティビジネス事例を対象にヒアリング調査

小平市内ですでにコミュニティビジネスとして活動している 3 事例のヒアリング調査を実施。起業のプロセス、実際に事業展開している現在を通して必要な支援ニーズをさがります。

あわせて、小平市いきいき協働事業の一環として実施した「コミュニティビジネス起業講座」受講生を対象にその後の進捗状況の追跡調査を通して、現在進行形の起業プロセスにおいて必要な支援ニーズを抽出します。

4. コミュニティビジネス先進地域を対象にヒアリング調査

コミュニティビジネスに先駆的に取り組んでいる 2 地域の中間支援団体の取組み調査を実施。今後の小平での支援の参考情報として、コミュニティビジネスのサポートの状況、課題、展望などのヒアリングを行います。

5. 関連文献、資料および Web サイトなどで公開されている各種データの収集・分析

本調査事業に関連した国や各自治体、シンクタンクなどの各種報告書や Web サイトで公開されている資料・データを収集し、コミュニティビジネスが必要とされる背景、今後の方向性などについて分析を行います。

第 2 章

コミュニティビジネスの概要

- 2-1 コミュニティビジネスとは
- 2-2 コミュニティビジネスの背景

第2章 コミュニティビジネスの概要

2-1 コミュニティビジネスとは

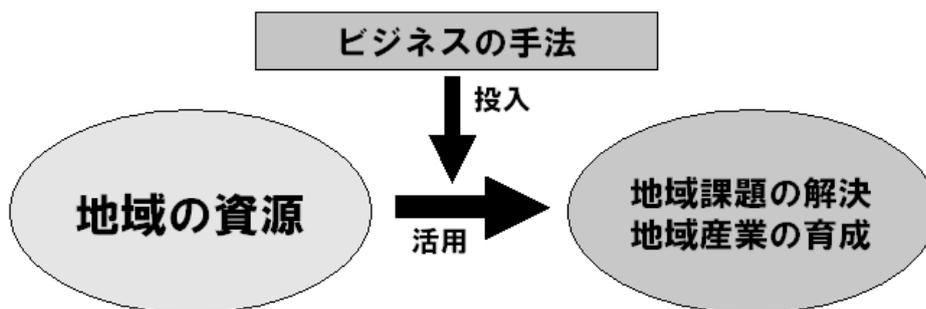
1. コミュニティビジネスとは

コミュニティビジネス（CB）とは、住民が主体となった地域密着の社会貢献性のある経済活動の総称です。

「こんな助けがあれば、もっと暮らしやすいのに」「まちの特色を活かして、地域経済を活性化したい」など、地域で暮らす人たちの思いから生まれます。

利益第一ではなく、地域の課題解決や仕事づくりを目指すもので、地域の人材やノウハウ、施設、資金など、さまざまな「地域資源」を活用することにより、地域課題を解決すると同時に、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与するものとして期待されています。

地域のため（コミュニティ）＋事業として（ビジネス）



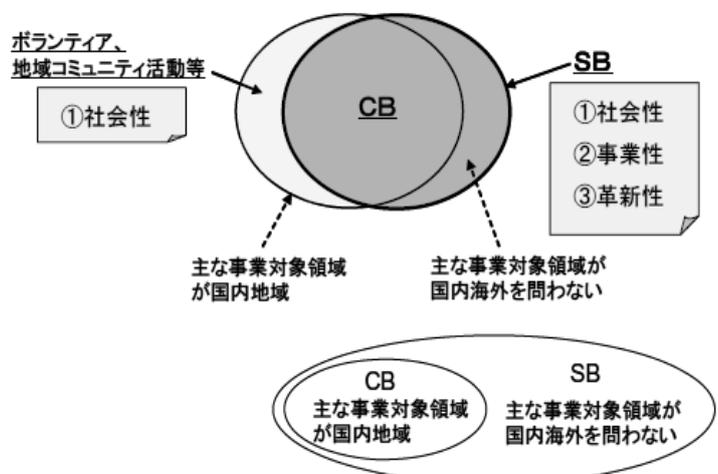
コミュニティビジネスの概要

2. コミュニティビジネスとソーシャルビジネス

コミュニティビジネスと類似の名称として「ソーシャルビジネス」（SB）がありますが、ほぼ同義です。

経済産業省では、平成19年度開催の「ソーシャルビジネス研究会」以降、こうした事業の呼称をソーシャルビジネスとして統一する方向を打ち出しています。

同研究会報告書では、コミュニティビジネスはソーシャルビジネスのなかで、事業対象領域が国内地域であるという位置づけです。



コミュニティビジネスとソーシャルビジネスの位置づけ
「ソーシャルビジネス研究会報告書」経済産業省、平成20年、4P

3. コミュニティビジネス団体のプロフィール

(1) 主な活動分野

① 福祉、保健、医療

高齢者福祉（介護サービス、グループホーム、移送サービス）、障害者福祉（障害者介護、障害者の就業支援）、保育（一時保育、親子広場）

② 青少年教育

青少年教育サポート（フリースクール）、民間教育（地域人材による生涯教育）

③ 環境

リサイクル（空き缶・ペットボトルリサイクル、廃油再利用、雨水リサイクル、生ごみ堆肥リサイクル）、環境保全（ビオトープ、環境教育、河川浄化、緑化）

④ まちづくり

商店街活性化（BOX ショップ、地域ポータルサイト、地域通貨）、交流（コミュニティレストラン・カフェ）

⑤ 就業支援・起業支援

就業支援（IT 教室、人材バンク）

⑥ 災害支援

安全対策（防犯対策、セキュリティ保護）、災害支援（地域の緊急時情報ネットワーク）

⑦ 観光

観光（グリーンツーリズム、観光資源の活用）

⑧ 文化、芸術、スポーツ

文化事業（地域の文化資産の活用、歴史・文化学習）

⑨ サポート事業

生活サポート（家事代行業、買い物代行、配食、住宅リフォーム）など

(2) 組織形態

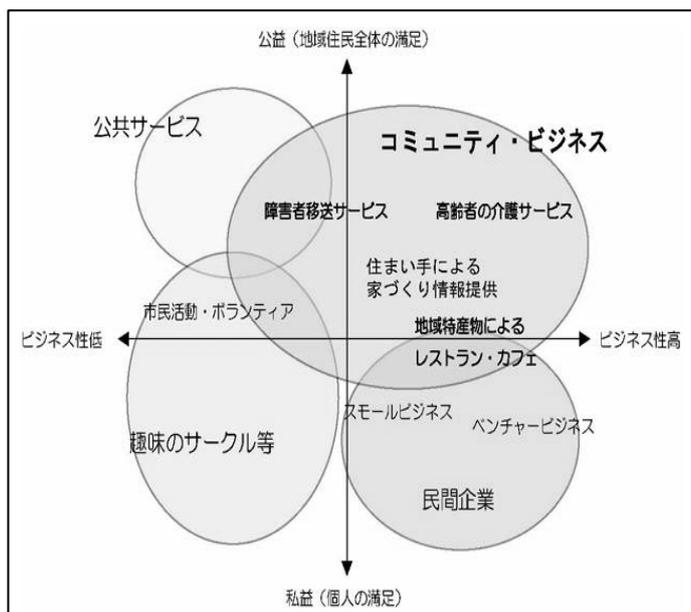
組織形態は問いません。NPO 法人、株式会社、ワーカーズコレクティブなどさまざまです。

(3) 活動エリア

小中学校の単位、市町村および近隣の市町村単位など生活圏が活動のエリアです。

(4) 担い手

定年退職後のシニア（第二のライフワークとして、これまでの経験を生かした活動）、主婦（子育てや介護などの経験を活かした起業、生活に根ざした地域ネットワークも活用）、若者・学生（社会研修やインターンとしてのCB活動、多様な働き方のひとつとしてのCBへの関心）など、住民が主体です。



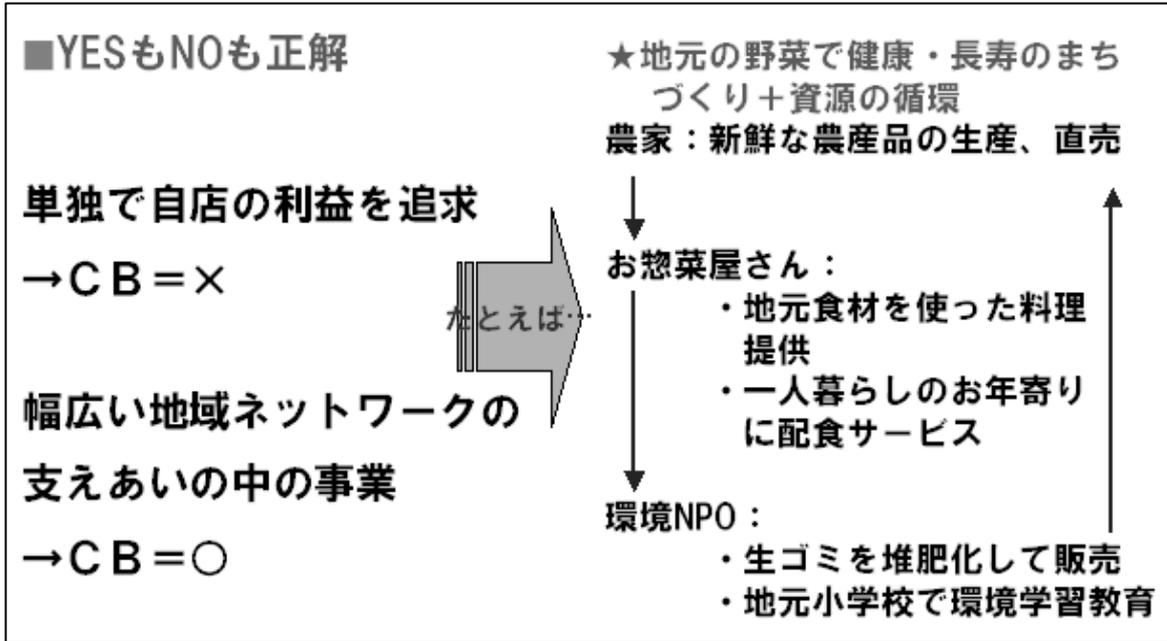
コミュニティビジネスの領域

「コミュニティビジネスの手引き」千葉県、平成15年、1P

(5) 地域ネットワーク

コミュニティビジネスは、単独で活動するのではなく、行政、企業、NPO、一般市民、大学、金融機関、経済団体などが連携し協働しながら幅広い関係性の中で活動しています。

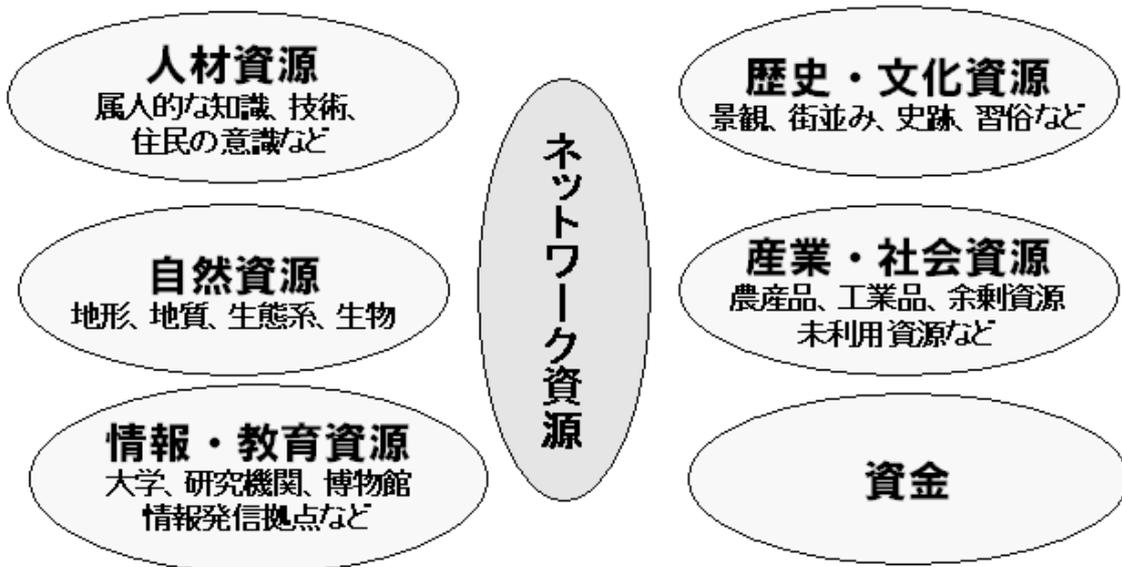
★お惣菜屋さんはコミュニティビジネス？



4. コミュニティビジネスと地域資源

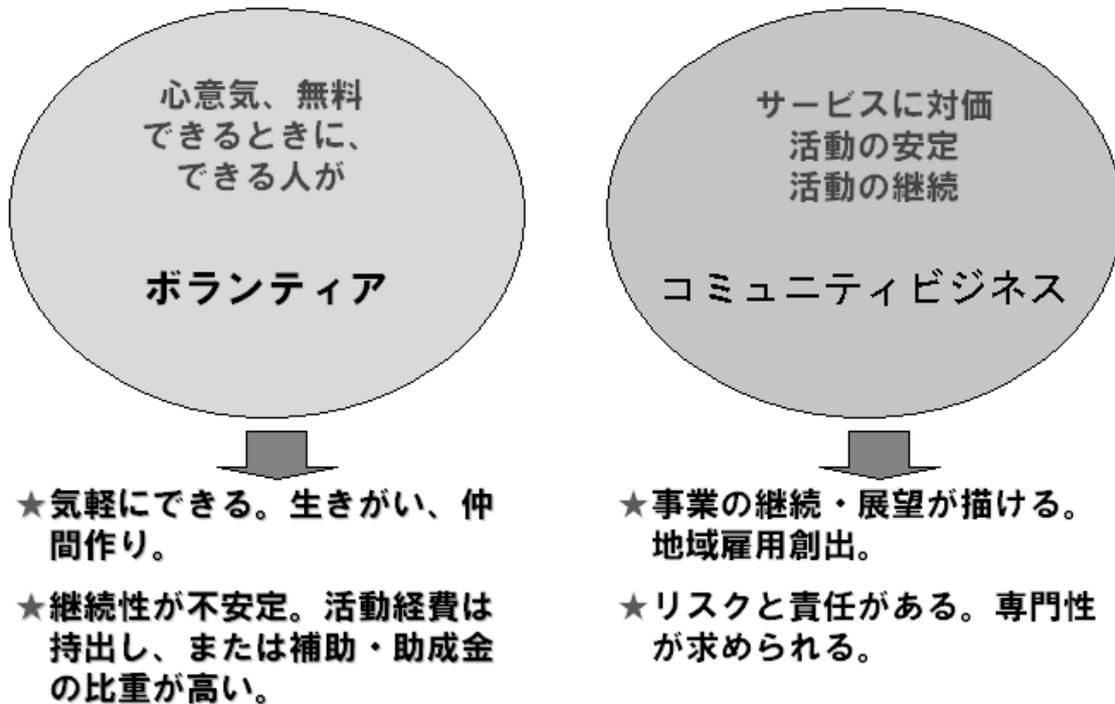
コミュニティビジネスは、人材、自然、大学、歴史・文化、農産物、地域ネットワークなど、地域が持つあらゆるものを資源として、地域課題の解決や、地域経済の活性化に取り組みます。

あらゆるものが資源



栗原 裕治 氏 (NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター) 作成資料より

5. ボランティアとの違い



コミュニティビジネスは「できるときに、できる範囲」で活動するボランティアに対し、サービスに対価を得ることにより、活動の安定・継続・専門的なサービスの提供を目指します。

コミュニティビジネスの考え方を整理すると、次のようになります。

★コミュニティビジネスは地域に成果を還元するもの

一般的なビジネスは動物的であるといえます。おいしいエサ（ビジネスチャンス）を求めて動きます。事業展開可能なエリアを拡大し、どんどん移動していきます。

一方、コミュニティビジネスは植物的なビジネスです。地域に根を張り地域から栄養を受け取り（地域資源を活用し、地域の消費者に支えられ）、地域に花や果実（まちを元気にする仕事、成果）を還元します。

★ビジネスは私益、ボランティアは公益、コミュニティビジネスは共益

地域に喜ばれ、自分も幸せになり、そして活動を継続・発展していくことを目指すのがコミュニティビジネスです。

★「地域で、楽しく、適正規模で適正価格で」がコミュニティビジネスの基本スタンス

コミュニティビジネスは、利益第一ではなく、適正規模・適正価格によって、責任を持ってサービスを継続させていくために必要な利益をあげることを目指します。まちに暮らす主婦、シニア、若者など、誰もが担い手になる可能性を持つものです。

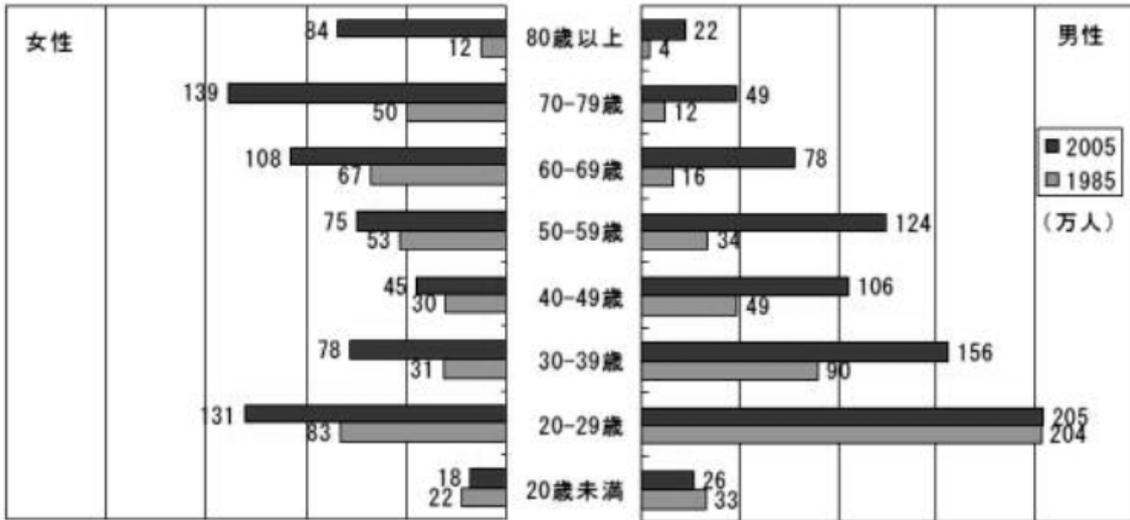
2-2 コミュニティビジネスの背景

1. いま、なぜコミュニティビジネスなのか

(1) 少子高齢化と無縁社会

① 保育、介護などの生活を支えるサービスの外部化の進展

少子高齢化、女性の社会進出の流れは、これまでの地域コミュニティや家族のありかたを変えました。1985年と2005年の年齢別・男女別単身世帯数を比較すると、(20歳未満を除き)すべての年齢層で男女ともに単身世帯数が増えています。



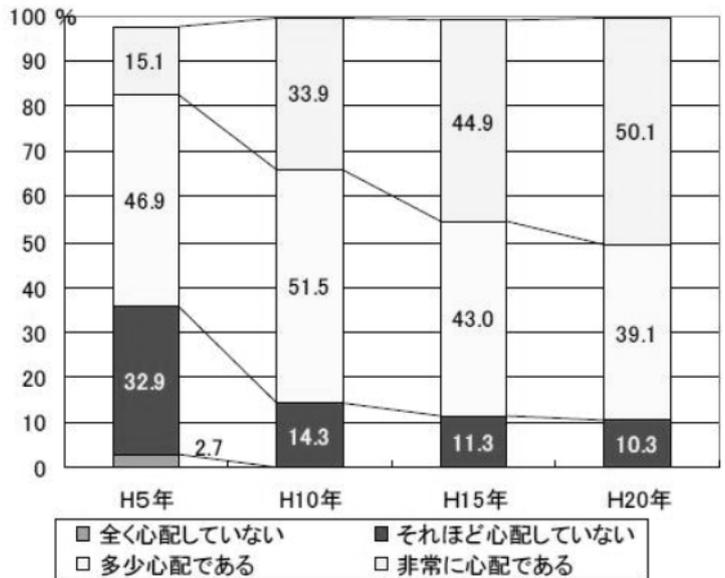
年齢別・男女別単身世帯数 「単身世帯の増加と求められるセーフティネットの再構築」みずほ経済研究所、平成20年

それに呼応するかのように、老後の生活に対する不安は年々高まっており、金融広報中央委員会の調査によると「老後に対して非常に心配している」層の割合は、平成5年の15%から平成20年には50%と大幅に増加しています。

介護、子育てなどの生活を支えるサービスは、従来、地域の助け合いや家族（おもに家庭にいる女性）によって支えられてきましたが、地域・家族の変化にともなって、これらを外部のサービスに頼る「生活サービスの社会化」が進んでいます。

「無縁社会」という言葉があらわ

すように、弱々しくなった家族や地域のつながりを補い、いかにセーフティネットをつくっていくのか。社会化した生活サービス、増大する市民ニーズへの対応は「誰が行うのか」、「どのような形が望ましいか」、そのために「今、どういった手を打つ必要があるのか」が問われています。そうした課題を解決する可能性として、コミュニティビジネスが注目されています。



老後についての考え方 「家計の金融行動に関する世帯調査」金融広報中央委員会、平成20年

② 増大する市民ニーズと行政・企業の限界

○ 行政の限界

増大する市民ニーズに対応をしようとしても、税収不足が進む中、また、行財政改革の流れがどんどん進む中では財政的に支えきれません。

○ 企業の限界

福祉、子育て、教育、環境などの地域の社会的な課題は、タイムリーできめ細かい対応が必要なサービスであることから、その仕組みは多様でロットが小さく、合理化によるコスト削減が難しい領域です。またこれらのサービスのコストは人件費が占める割合が高く、高コストで収益に結びつきにくい事業であるため、営利性を優先する民間企業としては、採算ベースに乗らない事業への参入は難しいものとなっています。

○ 行政と企業の間隙を埋める「市民セクター」

行政の手が届かず企業も手をつけないけれど、市民にとって必要な生活を支えるサービス。地域には、充分行き届かない間隙を埋めるセーフティネットが必要です。その担い手として期待されているのが「市民セクター」です。

(2) 市民セクターへの期待と課題

① 市民ニーズの担い手としての市民セクターの現状と課題

市民セクターとしては以下の種類があり、これらが地域のセーフティネットとしての役割を担うことが期待されています。

- ・地縁組織
- ・ボランティア
- ・政策系市民活動団体
- ・コミュニティビジネス（事業系市民活動団体を含む）

それぞれ、一定の役割を果たしながら地域を支えています。今後、さらに増大する市民ニーズの担い手として考えた場合、以下の課題があります。

○ 地縁組織

単身家族、共働きの増加などライフスタイルの変化はどんどん進行していますが、一方で地縁組織の組織形態や運営方法は従来の形を踏襲し硬直化しています。活動の多くは行政の協力活動としての性格が強く、新たな市民ニーズへの期待に応える機動力、事業運営力に欠けています。

○ ボランティア

ボランティアに関わる人の多くは、できるときにできる範囲のことを、という無理のない関わりを望んでいます。そうしたスタイルに、継続し、安定したサービスの提供を求めることは困難です。

○ 政策系市民活動団体

さまざまなまちづくりのテーマや環境保全などの分野で運動を展開する政策系市民活動団体は、住民運動という形をとって、世論形成を背景に行政や企業に対応を迫る力を持ちますが、地域の課題解決、市民ニーズの充足のために自ら動くという方向には活動が向いていません。

○ コミュニティビジネス

企業が「私益」、行政が「公益」とすれば、コミュニティビジネスは「共益」を目指します。

地域課題への対応を、「自立・独立した事業活動」にもとづいて、まちのことは自分たちで行うというスタイルの活動です。

政策系市民活動団体が地域課題の解決を目指して住民運動を展開するのに対して、同じ目的を自らが事業活動を行うことによって達成しようとする新しい使命感、スタイルで、市民ニーズの新たな担い手として期待されますが、市民の中に力のあるコミュニティビジネスが生まれる環境づくりはこれからという地域が多く、現在は成果を生む基盤を整える過程といえます。

2. 働くお年寄りは健康～住むまちで生涯働き続けられる仕事づくり～

右表のデータによると、都道府県別の65歳以上の有業率は、長野県が最も高く、次いで山梨県、福井県、鳥取県、静岡県となっています。これらの県は1人当たり老人医療費が低い傾向にあり、健康で元気な高齢者が多いことがうかがえます。

○65歳以上有業率上位と下位5県の老人医療費の低い順位の比較

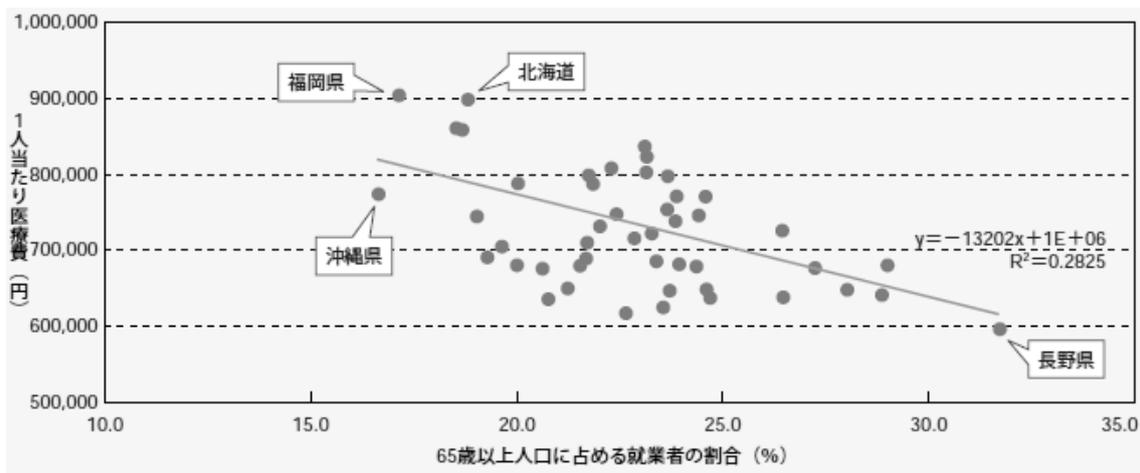
65歳以上有業率順位	都道府県名	老人医療費の低い順位	65歳以上有業率順位	都道府県名	老人医療費の低い順位
1	長野県	1	47	沖縄県	38
2	山梨県	9	46	兵庫県	31
3	福井県	26	45	長崎県	44
4	鳥取県	20	44	福岡県	47
5	静岡県	4	43	北海道	46

総務省「平成14年度就業構造基本調査」厚生労働省「平成15年度老人医療事業報告」

一方、有業率の低い都道府県は、沖縄県、兵庫県、長崎県、福岡県、北海道などとなっていますが、これらの県では1人当たり老人医療費が高い傾向があります。

これらのデータを下記のようにグラフ化すると、高齢者の有業率の高さと医療費の低さには相関関係にあることが示され、働くお年寄りは元気であるということが読み取れます。

働く意欲のある人であれば、生涯、働く場があることが住民の健康づくりにも有効であるということから、地域に雇用を創出するコミュニティビジネスに期待が寄せられます。



65歳以上人口に占める就業者の割合と老人医療費の相関関係 「厚生労働白書」平成17年度、169P

第 3 章

データで見る小平市の現状と コミュニティビジネス関連の動き

- 3-1 データで見る小平市の現状～小平市第2次行財政再構築プランより～
- 3-2 小平市におけるコミュニティビジネス関連の動き

第3章 データで見る小平市の現状とコミュニティビジネス関連の動き

3-1 データで見る小平市の現状～小平市第2次行財政再構築プランより～

1. 厳しさを増す財政状況

(1) 歳入面

平成 20 年 9 月のリーマンショック以降の企業業績や失業率など雇用情勢の大幅な悪化により、小平市でも市民税の大幅な減という影響がでています。

特に法人市民税は、平成 19 年度決算では約 25 億円であったのに対し、平成 22 年度予算においては約 8 億円となるなど著しい減となっています。このため、財政調整基金の取り崩しや赤字債である臨時財政対策債の発行を余儀なくされている状況です。

(2) 歳出面

生活保護世帯の増などにより扶助費は増加傾向にある一方で、昭和 40～50 年代にかけて建設された、多くの公共施設が老朽化し、その維持・更新のための大きな財政負担も控えています。

平成 22 年度当初予算における経常収支比率については 99.6%に達しており、財政の硬直化が進み、政策的経費に回せる余裕がほとんどない状態になっています。

また、小平市は平成 17 年度以降、普通交付税の不交付団体でしたが、法人税収の大幅な減もあり、平成 22 年度は 6 年ぶりに交付団体に移行しました。

※経常収支比率

人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費（経常的経費）に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源（経常一般財源）、減税補てん債及び臨時財政対策債の合計額に占める割合のことです。

おおむね 70～80%の間に分布するのが望ましいとされており、数値が高くなるほど、財政構造が硬直化していると言えます。

※普通交付税制度

地方公共団体の税源の不均衡を調整し、全国のどの自治体においても一定の行政サービスが提供できるよう財源を保障するための制度です。基準財政需要額（自治体が標準的な行政サービスを行うために必要な経費）が基準財政収入額（自治体の標準的な状態において徴収が見込まれる税収入など）を超える場合に、国から交付されます。

2. 少子高齢化の進展

少子高齢化は小平市においても進んでいます。小平市の全人口に占める 65 歳以上の人口の割合は年々上昇しており、平成 19 年における割合は 18.6%（1 月 1 日現在）だったのに対し、平成 22 年 1 月 1 日の同割合は 20%を超えています。

また、小平市の合計特殊出生率（平成 20 年度：1.25%）も全国平均（平成 20 年度：1.37%）を下回る水準で推移しており、今後もこの傾向が続くものと考えられます。

※合計特殊出生率

人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産むであろう子どもの数。人口を維持するのに必要な水準は 2.07（『人口統計資料集』2011 年版、国立社会保障・人口問題研究所）と言われており、この数値を下回ると、一般に「少子化」と呼ばれます。合計特殊出生率を使って将来の人口の自然増減を推測することができます。

3-2 小平市におけるコミュニティビジネス関連の動き

1. 小平市と市民セクターの関わり

(1) 小平市第 2 次行財政再構築プランにおける方向性－「新しい公共空間」の形成－

小平市第 2 次行財政再構築プランにおいて、“今後は、市民と行政とが公共サービス価値の向上という使命を共有し、市民による解決ができるものは「市民によるサービス」として、市民による解決ができないものは「行政によるサービス」として、市民と行政とがパートナーシップ（連携）と役割分担により共に公共サービスを担う「新しい公共空間」の形成を図ります。”として、「新しい公共空間」の形成がうたわれています。

同時に担い手である市民に対しても信頼を得るための説明責任について“こうした市民の自治がしっかりと根付いていく過程では、公共の仕事に関わることから、地域自治の担い手も地域からの信頼と支持を得るための説明責任が求められてくると考えます。”としています。

こうした新しい公共空間の形成が、今後、小平市でも推進されていく流れの中で、行政・市民、双方の時代の信頼を絆とした役割分担と、互いの特性を生かした専門性の高い取組みが求められているといえます。

(2) 市民とのパートナーシップの動き

小平市では、(1) で述べたように行財政再構築プランにおいて、「新しい公共空間」の形成を行財政再構築の視点に据え、市民と行政とのパートナーシップと役割分担による効果的なサービスの提供に向け、下記のような取組みが始まっています。

① 「小平市自治基本条例」の制定

自治基本条例とは、自治運営の仕組みと、その基本的な原理やルールを定めたもので、小平市では、平成 18 年 3 月、「小平市自治基本条例制定基本方針」を定め、自治基本条例づくりは、行政主導ではなく、市民が自ら自治の基本ルールを討議し定める取り組みとして進めることとしました。

平成 18 年 6 月に、市では、自治基本条例の検討のために、「市民の会議準備会」のメンバーを公募、8 月に公募の市民の方 61 名で市民の会議準備会が発足しました。

19 年 2 月に、市民の会議準備会は、市と、条例案の策定に関する役割分担や相互協力の内容を定める協定を締結し、「自治基本条例をつくる市民の会議」を設立し、市は、この協定に基づき、

市民の会議の条例案の検討を支援しました。

市民の会議では、160回の会議を重ねて条例案の検討を行い、また、条例案に広く市民の意見を反映するために市民意見交換会を開催して、平成20年5月10日に市長に条例案を提出しました。

提出された条例案は、市で、議案の体裁に調整して、市議会6月定例会に提案しました。市議会では、議案の審査のために、小平市自治基本条例特別委員会を設置し議案を付託。19回の審査を行い、平成21年12月定例会最終日に議決し、12月22日に「小平市自治基本条例」が施行されました。

② 協働の推進に関する指針の策定

小平市の協働事業をさらに推進することを目指し、平成20年度に「小平市協働の推進に関する指針」が策定されました。小平市が市民の皆さんと協働する際の行動指針となるもので、協働の原則と推進に関する指針です。

③ 市民活動支援センターの開設

平成22年4月、小平元気村おがわ東に市民活動支援センターが開設されました。管理運営は、指定管理者であるNPO法人小平市民活動ネットワークです。会議室のほかに、打ち合わせができる交流スペースがあり、市民活動に関する情報提供、相談などに対応しています。

④ 市民活動支援公募事業

市内で実施する市民活動団体が自ら企画し実施する自主的で非営利な事業について、その事業に係る経費の一部（2分の1、30万円を限度）を補助するものです。平成18年度から実施しており、平成22年度は、選考審査の結果5件が採択されました。

⑤ いきいき提案事業公募制度

ボランティア団体や市民活動団体、自治会等が、公益性の高い事業を提案し、市と協働して実施することにより、市民との協働の推進を図るとともに地域の課題の解決など公益の増進に寄与することを目的とするものです。（平成21年度～）

提案事業は、市が提示した事業（提示事業）と団体が提案する事業（新規事業）の2種類となっています。提案できるのは、主に市内を活動範囲とし、自主的に社会貢献活動を非営利で行うなどの幾つかの要件を満たしている団体で、提示事業については、その事業に係る予算額の範囲内、新規事業については200万円を限度としています

提案された協働事業は、有識者や市職員で構成する選考審査会で審査して採択事業を決定します。平成21年度は、7件の申し込みがあり、2件の事業を採択、平成22年度は、6件の申し込みがあり、2件の事業を採択、となっています。

⑥ 小平市行政サービス民間提案制度

既存の市の事業に対して、民間事業者の創意工夫を生かし、提供主体の多様化を図り、効率的で質の高い行政サービスを実現するため、委託化などに関する提案を募集するものです。（平成22年度～）。

対象となる事業は市が現在、直営で行っている事業です（一部対象外となる事業もあり）。

提案できるのは、提案内容を的確に遂行する意志と能力を持った民間事業者、NPO法人、市民活動団体など。有識者などで構成する選考審査会が、書類選考と面接により審査を行います。平成22年度は3件の提案がありましたが、採択に該当するものではありませんでした。

2. 小平市内のコミュニティビジネス活性化の動き

市内でコミュニティビジネス活性化の試みがこの数年の間に始まっています。平成 22 年度は、以下のような動きがありました。

(1) 小平商工会:コミュニティカフェ創業講座

小平商工会では毎年、創業講座を開催していますが、平成 22 年度はコミュニティビジネスをテーマとし、その中でも「コミュニティカフェ」に絞った講座を開催しました。

平成 22 年 9 月 18 日（土）～10 月 16 日（土）の連続 5 回の講座は、募集開始まもなく定員 40 名に達し、テーマに対する関心の大きさがうかがえる結果となりました。

(2) 小平市いきいき協働事業:コミュニティビジネス支援事業

平成 21 年度のいきいき協働事業に応募し採択された NPO 法人Mystyle@こだいらの「小平市コミュニティビジネス支援事業」が、平成 22 年度に小平市との協働事業として以下の内容で実施されました。

① コミュニティビジネス入門講座

平成 22 年 9 月 12 日（日）開催。定員 50 名。基調講演、コミュニティビジネス実践 2 事例、ワールドカフェ。

② コミュニティビジネス起業講座

平成 22 年 10 月 13 日（水）～12 月 8 日（水）連続 8 回。定員 20 名。コミュニティビジネスの概要、実践者からの具体的なケーススタディをとおした起業ノウハウ、事業計画づくりまで。

③ コミュニティビジネス調査

今後の小平市のコミュニティビジネスへの取り組み方針検討の基礎資料として、また、地域でコミュニティビジネスを始める担い手にとってのマーケティング資料としても活用できるものを目指し実施したもの。(成果のとりまとめが本報告書です)

(3) NPO 法人Mystyle@こだいら自主事業

① プロボノカフェ

平成 22 年 5 月 22 日（土）に開催。本業以外のプライベートタイムに、コミュニティビジネスを含む社会貢献活動にプロのスキルを生かす「プロボノ」というライフスタイルについて、講演とワールドカフェによる対話で掘り下げました。

※ワールドカフェ

ワールドカフェは「カフェにいるときの気軽な雰囲気」で「会議のような真剣な討議」を可能にするために設計された新しい話し合いの方法です。

4～5 人の小グループでの話し合いをメンバーの組み合わせを変えながら、会話をつなげることで、擬似的に「全員と話している」気分になれるようなファシリテーション手法で設計されています。リラックスした雰囲気の中での会話や話し合いのプロセスを通じて、新しいアイデアが生まれるばかりでなく、相互理解と共通認識の醸成に役立つとされています。

② ソーシャルキャピタルカフェ

平成 23 年 2 月 5 日（土）に開催。「ソーシャルキャピタル Cafe～C Bを育む地域ネットワークとは～」というタイトルのもと、コミュニティビジネスを育む地域ネットワークにおけるソーシャルキャピタル（社会関係資本）の可能性について、対話し、ともに考えるワークショップイベントをおこないました。

③ コミュニティビジネストークライブ・交流会

コミュニティビジネスを育む地域プラットフォーム作りの一環として、コミュニティビジネスに関心を持つ方たちが自由に参加し交流するイベント「マイスタイルな夜」を平成 22 年 9 月にスタートし、平成 22 年度は隔月で 4 回開催しました。

第一部はゲスト（行政職員、社会貢献事業に取り組む企業、商店街を舞台にお年寄りの見守り事業を行う大学など）によるトークライブと活動紹介、第二部は交流懇親会を行いました。

第 4 章

エリア別小平市の地域課題・地域資源 ～グループインタビューより～

- 4-1 グループインタビューの目的
- 4-2 グループインタビューの方法
- 4-3 エリア別小平市の地域課題・地域資源
- 4-4 グループインタビューから見えてきたこと

第4章 エリア別小平市の地域課題・地域資源 ～グループインタビューより～

4-1 グループインタビューの目的

これからコミュニティビジネスをスタートさせようという人にとって、地域の抱える課題、地域にどのような資源があるかを知ることが、とても重要です。同じ小平市内といっても、それぞれの地域で抱えている課題は違い、その解決方法もその地域に暮らす人、その地域にある資源で違ってきます。

そこで、地域ごとの課題と資源をよく知るためにグループインタビューを市内10地域で行いました。

4-2 グループインタビューの方法

グループインタビューを行った10地域は、平成22年6月に小平市が行った『第17回小平市政に関する世論調査』の地域区分を利用しました。地区区分は下記のとおりです。

■地区区分

さまざまなネットワークを通して、その地域内に住む30代～50代の市民に声かけをして、2～6人のグループで、1時間～1時間30分のインタビューを行いました。

インタビューでは、まず暮らしている地域のすみやすさを10点満点として点数に表し、それを補って10点満点にするには地域に何があればいいかを自由に話してもらいました。

市民として行政に要望するというだけでなく、市民が主体となって、いまある地域の課題を解決していくとしたら、どのようにしていくかというコミュニティビジネスの視点から地域の課題を考えました。

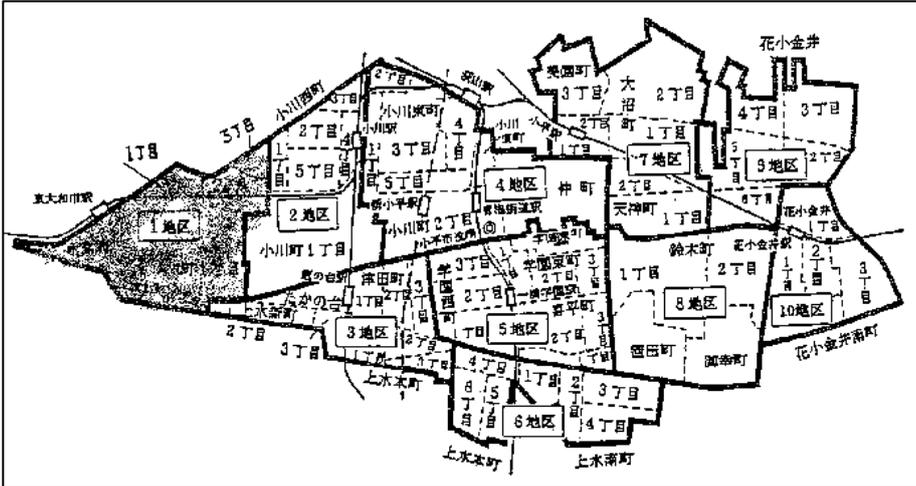
■地区区分図



地区区分	該当町丁目
第1地区	中島町、栄町1～3丁目、小川町1丁目73～741・2488～2589、上水新町1丁目
第2地区	小川西町1～5丁目、小川町1丁目（上記以外の地区）
第3地区	たかの台、津田町1～3丁目、上水新町2・3丁目、上水本町1～3丁目
第4地区	小川東町及び小川東町1～5丁目、小川町2丁目、仲町
第5地区	学園西町1～3丁目、学園東町及び学園東町1～3丁目、喜平町1～3丁目
第6地区	上水本町4～6丁目、上水南町1～4丁目
第7地区	美園町1～3丁目、大沼町1・2丁目、天神町1・2丁目
第8地区	鈴木町1・2丁目、回田町、御幸町
第9地区	花小金井2～6丁目
第10地区	花小金井1丁目・花小金井南1～3丁目

4-3 エリア別小平市の地域課題・地域資源

1. 第1地区 雑木林と玉川上水、野火止用水のそのままの自然を活かす



●最寄り駅
西武拝島線東大和市駅

●地区内公共施設
上宿公民館
上宿図書館
中島地域センター
上水新町地域センター
小平市清掃事務所
こもれびの足湯
東京都薬用植物園

(1) 雑木林を活かしたユニークな施設づくりを

- 西武拝島線の東大和市駅を降りると、目の前にすぐ東京都の薬用植物園があります。とても珍しい施設ですが、薬用植物なので扱いに知識が必要な植物もあって、子どもたちにどんどん行ってというわけにも行きません。ですが、**薬用植物園裏側の雑木林は大きな木がたくさんあってすばらしいです。**そこにツリーハウスや、子どもたちが木登りできる空間がある公園として作ったらいいと思います。市内のポリテクカレッジで生徒が毎年ツリーハウスを作成するけれど、その置き場に困って場合によっては廃材として処分しているという話も聞いたことがあります。それを有効活用して林の中に置いてもらえば、**わざわざ遠いところまで行かなくても駅を降りてすぐのところで、木登りが出来たり、ツリーハウスで遊べたりする施設となったら魅力的だと思います。**
- 子どもを育てる環境としては満点に近い**です。玉川上水、野火止用水があって自然豊かで、カブトムシは取り放題だし、上水にはザリガニ、魚はいるし。このあたりはそのままの自然が残っていますからね。
- 夏休みに期間限定で中央体育館の横の森で開催されているプレイパークのような施設では、子どもたちは木から下げられた大きなおおきなブランコをしたり、土を自分たちで掘ってトンネルをつくったりして楽しめるんです。そういう施設はいいですね。
- 近くの玉川上水を散歩しているうちに鳥に詳しくなりました。鳴き声を聞いて、あの鳥だとわかるようになりました。**鶯などもよく鳴いていて、日常生活の中に風情を感じます。

(2) こもれびの足湯をヒントに、グリーンロードの魅力をアップしていく

- ウォーキングする時にずっとグリーンロードを歩いていけるので、この地域に住んでいてよかったですと思います。グリーンロードは、みなさんよく歩いています。ここに外から観光客が来てくれるようになったらいいですよ。

- このあたりだと「**こもれびの足湯**」がありますね。でも、**グリーンロードから少し離れているので、歩いていると途中で何人もの方に「どこですか」と聞かれました。**冬場でも結構、人は来ていましたね。足湯ができると聞いてとても期待していたのですが、**案外こぢんまり**しています。
- もともと足湯は市の焼却炉の熱を有効利用する目的で作られたんです。**散策のお休み処**としてグリーンロード沿いに、ぽつぽつとこうした施設を増やしたらいいと思います。
- 楽しそうですね。グリーンロードの途中に商業施設があつて**足湯だけでなく糧うどんが食べられたり、野菜を売っていたり。そして、そこから買った荷物は宅急便で送れる。**市がやるというのではなく市民が農家の人と連携したり、みんなの知恵で運営していったらいいと思います。
- 野火止用水沿いに一軒屋カフェがあります。野火止用水を借景にしている、えさ場を作って鳥を寄せていたりして、そこにいるとリラックスしてまた来たくなる雰囲気です。お客さんも結構入っています。**この辺りは借景ができるので、**そういうお店などもできるのかなとも思います。

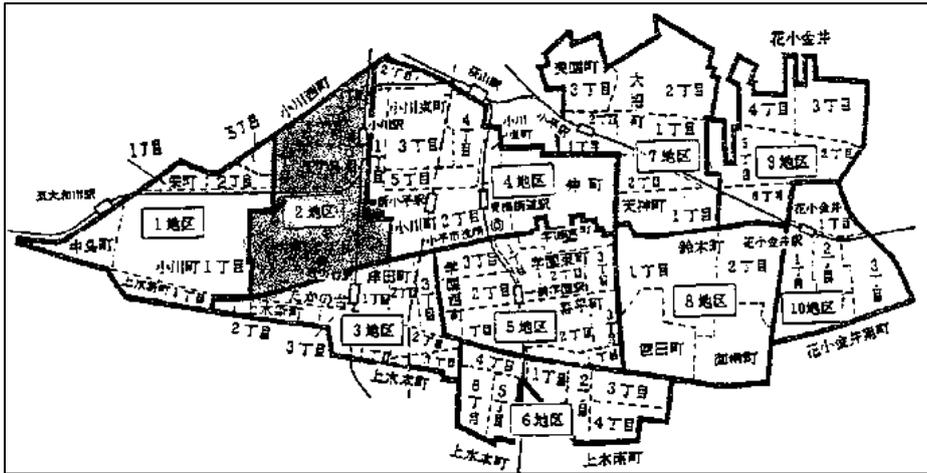
(3) 地域に使い勝手のいい拠点が必要

- 公民館と地域センターの違いが使う側にはわからないけれど、どちらも1年ごとに登録しないと使えないので不便です。**お母さん同士でちょっと話をしたいと思っても、どの団体ですか、5人以上で利用してくださいと言われてしまいます。**もうちょっと気軽に使えるようになればいいです。
- 友だちの家で小学生向けに、通信教材を使ってわからないところをお母さんたちが教える勉強会をやっています。たまには広いところでやりたいと思って地域センターを借りようとしたら、いろいろと聞かれて。**もっと気軽に借りられる場所があったらいいですね。**
- 公民館や地域センターなどにお茶の飲める場所があればいいと思います。**近くにあさやけ風の作業所があつて、屋上でお茶が飲めるようになっています。いまある施設では無理かもしれないけれど、新しくできる所には**クッキーを作る作業所などが入ってコーヒーラウンジができないか**と思います。
- 授産施設の人たちがそういう施設をやることで、自分たちの作ったものはこういうところで売られているのだとわかったり、また市民にしてもそういう人たちが作っているのか、施設はここにあるんだなとわかったりしてお互いにいいと思います。
- 神明幼稚園でバザーをした時、手作りが好きな方というのが大勢いることがわかって、**お宅で「ひとにぎり」というイベントをした方がいました。ワンコインで買えるようなもの、ケーキはワンカット100円、お肉のおかずもワンカット150円でその場でも食べられました。入れ替わり立替わりで60人ぐらい、お子さん連れも来ていて、とても楽しかったです。手づくりの小物とかも売れて、**手芸の好きな方の中では、作ったものを売れる場所があったらいいねと盛り上がり**ました。こんなふうに自由な使い方ができる場があったらいいなと思います。

コミュニティビジネスの種

玉川上水、野火止用水にはさまれたこの第1地区は、小平市の中でも特に自然豊かな地域です。その豊かな自然をそのまま資源として活かして、玉川上水沿いに小さな商業施設を作ったり、雑木林を活用して子どもたちが遊べる場所を作ったり、地域の暮らしが豊かになるとともに周辺から観光客を呼び寄せる仕組みが作れる可能性があります。また、すでに地域で活動している人たちが出会う場づくりそのものも、コミュニティビジネスとして考えられます。こうした場が生れることによって、さらにこの地域の人的資源が発掘される可能性があります。

2. 第2地区 地域資源は産直野菜、グリーンロードは手入れを



●最寄り駅
西武国分寺線小川駅

●地区内公共施設
西部市民センター
(小川西町公民館)
(小川西町図書館)
小川西町中宿地域センター
小川西町地域センター
小川公民館
図書館小川分室

(1) 地域の資源にはPRが、グリーンロードには手入れが必要

- 花の摘み取りができる小川農園は喫茶店もあって素敵な所だと思います。グリーンロードの散歩の途中に寄るには遠いので、ちょっと惜しいですね。
- 小川のあたりには、九道の辻や屋号のある農家など歴史的なものがあるのに知られていませんよね。お知らせとかを見て「ああそうなんだ」と改めて知るとい感じです。
- 小川あたりのグリーンロードは、駅から遠いので地元の人しか知らない感じです。畑の中をつきつて行かないといけないし、ただの近道になってしまっていますね。昼でも通るが怖い感じがして、夜は女性1人では通ってはいけない感じです。もっと草刈りとかをして、明るくすればいいのに。

(2) 商店街に地域の野菜を

- 普通の家が通りに面した商店街の中に建ってしまって、商店街の店主さんが高齢化しているから、いずれ商店街が住宅になってしまうのかなと心配です。
- 今は食にこだわっている人は生協の宅配などを利用しているし、そうでない人は大きなスーパーで週末にまとめて買っているしというように2極分化しています。だから、近くに店があればいいというものではなくて、特徴があってここだけしか買えないとか、あそこで売っているものはとてもいいとか、なにか特徴がないとわざわざ商店街には買いに行かないと思います。
- 畑のわき道にあるような野菜の直売所の大きいものが商店街の中にあって、何時ごろまで売っているとわかって、品数がある程度そろっていて朝採りで新鮮となれば買いに行くと思います。
- 近所の直売所は、今のところでも並んで買っていますから、繁盛すると思います。畑のわきのところはそのまましておいてもらって、商店街の中にそういうものがあったら行くと思います。
- 小川駅の昇降客が少ないので、このエリアはなかなか厳しい状況だと思います。でも、駅近くには混んでいる店があります。パン屋さんでも値段が手ごろで納得できる店はお客さんがたくさんだし、近くのラーメン屋も繁盛しています。お店がそれなりならやはりはやるのだと思います。

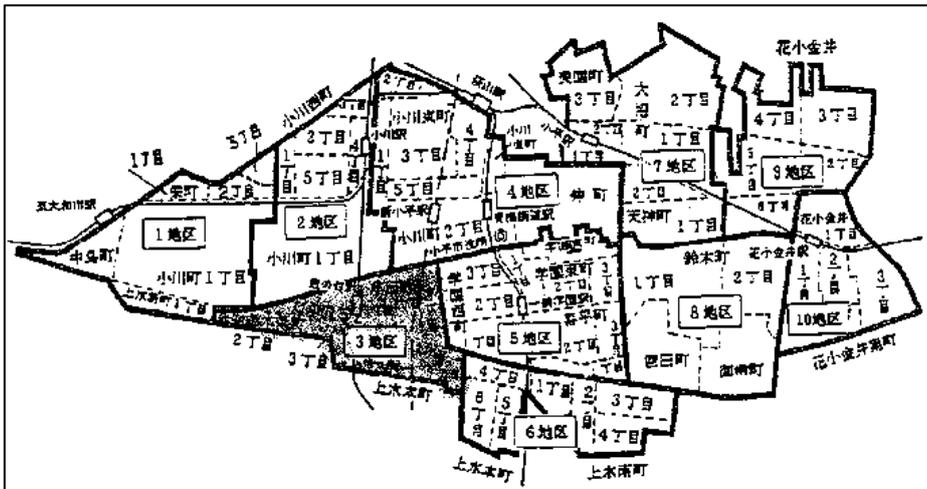
(3) 地域に一番必要なのは中心になる場やイベント

- この地域には文化的にも、イベント的にもなにか中心になるものがありません。みんながつながりたいと思った時に集まれる場所とか、イベントとか中心になるものがないように思います。そういうものがあればいいなと思います。地域に集まれる場所や機会がない上に、暮らしている人がみんな忙しくなって、地域の力が薄くなっているように感じます。
- 地域センター等はあるけれど飲食できるところがないので、**カフェみたいなものがあるといいな**と思います。近所にあった一軒屋の喫茶店はつぶれてしまったし、小川農園の喫茶店は閉まるのが早いし、冬場はやっていないし。**仕事が終わってお茶を飲もうと思っても行くところがないんです。**
- 私の最近のお気に入りは一軒屋のカフェです。ランチから5時まで営業しています。でも、仕事帰りの人は寄れない。**個人店は、その人の暮らし方に合わせて営業するので、開いている時間帯が限定されるのが残念なところ**です。
- 栄町には**売れ残っている物件**とか、人は住んでいないけれど電気を引いたままになっている家とかがあります。**グループホームがなくて困っている人も**いるから、そういうふうにご利用してもいいのではないのでしょうか。
- シルバー向けの居酒屋も**はやりそうです。私の周りのシニアの人は結構飲むのが好きだから、**午後2時から9時ごろまでの営業で**やったらいいのではないかしら。夕飯も食べられます、持ち込みもOKですにして、採算の方はまったく考えていない思いつきだけど。昼は子育てママたちで、夕方からはシニアでという具合にしておいて、たまには世代間交流があつていいかもしれないです。
- 2年ぐらい前に東村山駅から少し離れたところに、一軒屋を**午前中から2時は子育てママたち、午後は多様な人たち、夜は働いている男の人たち**というふうに時間帯ごとにシェアしているところがあると聞いたことがあります。詳しい理由ははっきりしないけれどなくなってしまったのですが、**対象によって時間帯をわけるといのはおもしろい取り組み**だと思いました。
- ワンデーシェフの時間版みたいな形ですね。おもしろいですね。
- 中心になれる場が地域にありませんよね。**公民館、地域センターでは自由に企画ができないので、拠点にはなりにくい**ですし、いろいろなものがもう少し気楽に楽しめるようになったらいいと思います。地域に住んでいる人のニーズにマッチした形で使えるようなものがほしいです。
- 足りないものはたくさんあるのだけれど、それをどうにかするために必要なのは、中心になる場所、集まれる場所です。お茶が飲めて、交流がもてて、ある程度の融通が効いてお役所的でない場所、つまりコミュニティカフェみたいなところがあればいいです。地域のたまり場になるような場があったらいいなと思います。

コミュニティビジネスの種

地域の課題はコミュニティビジネスのヒントといいますが、まさにこの地域にはそうした種が眠っていきそうです。地産地消が見直され小平産の野菜を食べたいというニーズは確かにあります。一方、畑の近くの直売所に行ける人は限られています。野菜を商店街で販売するには仕組みが必要ですが、実際にコミュニティビジネスとしての先事例もあります。こうした取り組みを実現するためにも望まれているのが、地域の人が集まれる場所です。地域の資源・空き物件を、コミュニティカフェやグループホームに利用するというのは、市民にも、その所有者にも、さらに地域にもメリットがありそうです。新しい視点と発想でなにか1つコミュニティビジネスが生まれると、地域内の資源が次々に活かされていくと思われそうです。

3. 第3地区 バランスのとれた地域の魅力を市民力でさらに活かす



●最寄り駅
西武国分寺線鷹の台駅

●地区内公共施設
中央公園
市民総合体育館
津田公民館
津田図書館
上水本町地域センター
ふれあい下水道館

(1) 施設だけでは十分でない子育て支援

- 私はここでしか暮らしたことがないので、比べようがなくて点数がつけられませんが、住みやすいし、子育てもしやすいです。そういう所なので、ずっとここに住んでいると思います。
- 越してきた時の印象は **6.5 点ぐらいの暮らしの満足度**でしたが、プレイパーク活動をしている人がいたり、シングルマザーのネットワークを作っている友人がいたりなど **市民レベルですごく活動しようという人たちがたくさんいるので、評価があがりました。**
- 子育てはしやすいし、環境は静かでいいです。買い物が多少不便なところがありますが、買い物には困るほどではありません。子どもが学校に入ってから、**地域の人に子どもがとても見守られている**という気がします。
- 小平市内でいえば、この辺りは住みやすいです。**公共の施設と自然、文化的なもののバランスがいい**と思います。中央体育館の遊戯スペースは、子どもがのびのびと遊べていいですね。
- 中高生は居場所がないんです。**23区内は1小学校区に1児童館があつて乳幼児だけでなく小学生も児童館に行けば館員はいるし、大きい子どもたちも誰かがいて遊べたんです。近くに**児童館ができたのはうれしいのですが、小さい子どもたちしか利用できないし、子どもが小さいころ利用していた近隣の市の方が充実していて、もう少し吟味して作ってもらえたらな**と感じています。
- 中高生**ぐらいは家族から離れたい時だから、**学校でもない、家庭でもない、大人と関われる場**があったらと思います。**地域センターとかでも、よく話を聞いてくれる人がいればいいのだ**と思います。
- 公民館でも学習室として部屋を開放してくれていますが、**空間だけではだめだ**と思います。**人がいないとだめ**なんだと思います。何するわけでないけれど、何かあれば話を聞いてくれたり、どうしたのと声をかけてくれたりする人、名札はなんでもいいけれどそういう人がいることが大事です。

(2) 子育ても、介護も市民の力で

- 話してみると、プレイパークや武蔵野美術大の公認サークルちびくろなど結構いろいろな活動があります。ただどこに何があるという施設案内のような**マップとは別に、こういうふうに関わらせたり、遊ばせたりする方法がある**ということをPRするツールがあったらいいと思います。

- 地域のポータルサイトとして「こだいらネット」があるのは知っています。登録すると市民が活動の情報もアップできるのでしょうか。でも、市民活動をしている人は知っているけれど、そうではない方は知らないですね。
- 子どもが不登校**になった時、どこに相談に行けばいいかわからなかったし、**気軽に相談できる場所がほしかった**と思います。
- 訪問美容などを仕事でしていますが、昨日も1人暮らしの年配の方が介護への不安を感じると話していました。**もっと1人暮らしの方へのサービスがあったらいいのかな**と思いました。隣の方も認知症なので、これからの**地域の見守りなどをもっと増やしていったらいいかな**と感じています。
- 大沼町やこのあたりは歩いていかれるところに**1人暮らしの老人の人が立ち寄れるようなところ**がないです。**コミュニティカフェ**が、このあたりにもあったらいいなと思います。
- 先日も近くでお年寄りが1人でなくなっていてしばらくしてから見つかったのですが、悲しかったです。妹がお菓子を作るのが好きで売れたらなといっているのを、改装してお茶の飲めるようなところを作ろうかとも考えました。**駄菓子屋さんで、子どもはお菓子を買**いに来て、**大人は少し社会勉強**のできるようなところもいいかなと思っています。

(3) 大学との連携で魅力のある地域づくり

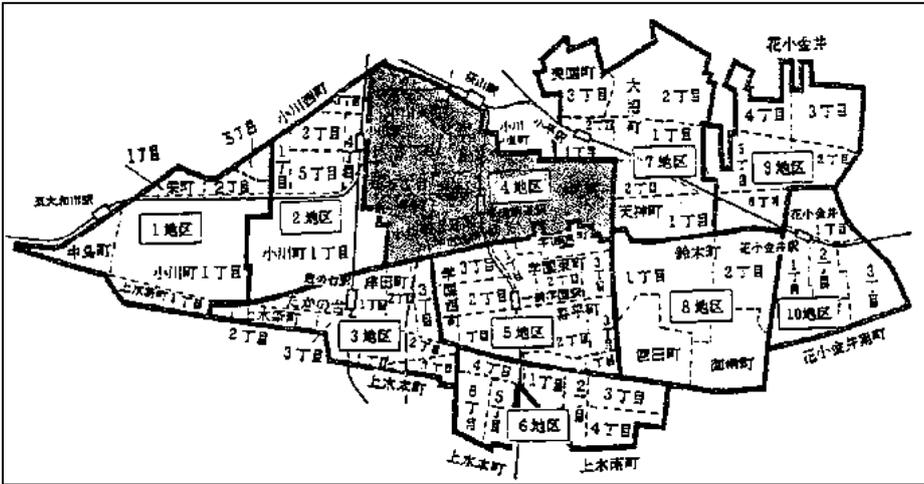
- この辺は**大学や学校が多い**ので、無料・有料を問わず**いろいろな講演や講座が充実**していると思います。津田塾大学の講座や白梅大学の子育ての講座やお祭りには行ったことがあります。
- この辺は大学が多いので、学園祭には中学生が喜んで出かけて行って、楽しいと言っていました。プレイパークには、近隣の学生さんたちがボランティアに来てくれているのですが、そういう学生さんと連絡を取り合って、遊びに行っているいろいろと話したそうです。大学生とお友だちになれて良かったみたいです。**コミュニティカフェみたいなのがあって、大学生がボランティアで入ってくると、中学生が来ていろいろ話や悩みを聞いてもらえていいかもしれない**です。
- 一橋大学のカフェがなくなってしまったのは残念**です。スポーツセンターは時間を区切って学生に開放しました。市民活動をしている人、子育て中のお母さんたちなどいろいろな人が利用していたので、**あそこが復活したらいい**ですね。留学生の人も多くて多様ですね。
- いままでは、一橋大学のカフェで働いている人とコミュニケーションをとるといことはなく、スペースとして使っていたけれど、**食事を作る人でもなく、サービスを提供する人でもなく、話を聞くような人がいて地域の人**が**交流できる場**として活用できたらいいですね。

コミュニティビジネスの種

かつてあった商店街がなくなっても、まちの持つぬくもりは変わらずそこにある一方、高齢化が進んでいる今、新たな地域の仕組みが必要とされているようです。その1つが1人暮らしの高齢者の見守りや食事、その他のサービスです。

また、子育てでも行政のサービスでは対応できない、多様なニーズにこたえるサービスが必要とされています。それを支える人材として、この地域で期待されているのが近くにある大学の学生です。市民レベルでの交流はすでに始まっていますが、それを継続性のある仕組みにしていくなために、まず必要となってくるのは地域をプロデュースする人材なのではないかと考えます。

4. 第4地区 地域の資源を活用する仕組みがほしい



●最寄り駅
西武多摩湖線青梅街道駅
J R小平駅

●区内公共施設
市役所
小平元気村おがわ東
小川東町地域センター
小川東第二地域センター
中央公民館
中央図書館
小平商工会館
小川町二丁目地域センター・児童館
萩山公園プール

(1) 小平市のアンテナショップがほしい

- 私は農協へ野菜を買いに行くのですが、野菜が新鮮だけでなく、はちみつや梅干しなどの加工品を売っています。でも、知っている人が少ないです。小平市内にもアンテナショップがあつたらいいなと思っています。農協で扱っている野菜やその加工品だけでなく、特産のブルーベリーを使ったお菓子なども買えるといいですね。スーパーの中とか、人の来るところにあつたらいいです。
- タウン情報などをみるとブルーベリーを使ったかわいいお菓子があつていいなと思うのですが、お店も点在しているので、車がない私は移動手段がないんです。ですから、アンテナショップのように、そこに行けば小平のものがいろいろ買えるという場所があつたらと思います。
- ふるさと村では何種類かブルーベリーを使ったお菓子を売っていますが、行かないとそこで売っていることを知らないですよ。せっかくグリーンロードのようにきれいなところがあるので、そういうところにアンテナショップがあつたらいいです。きっと口コミで広がっていったりします。
- アンテナショップという看板があると、少し遠くても行ってみようかなという気になると思います。わざわざ銀座にある熊本とか宮崎とかのアンテナショップに行くんですから。
- 実家に帰る時や友だちに会いに行く時に小平銘菓を買いたいと思います。地図を見てブルーベリーのお菓子を買に行っても売り切れていたり、注文がないからと作ってなかったことがありました。アンテナショップなどでいつもお客さんが来ていればお店も作りますよね。そうなれば商店主さんもうれしいだろうし、消費者の私たちも小平の名物だよといって手渡せるのでうれしいです。

(2) 緑の地域資産を活用したい

- せっかく畑がたくさんあるので、高齢の世代の人だけでなく、いろいろな世代が当たり前で地産地消に関わるシステムがあるといいなと思います。そういう目で周りを見回すと眠っている畑も結構あるように感じています。畑がもっと簡単に借りられたり、子どもが大きくなった時に農作業に参加できたりするといいなと思います。緑の有効利用ということです。夫の友人が、お父さんがなくなって実家に戻ってきたのですが、これまでは4棟のビニールハウスがあつてもお母さんが1人だったので1棟しか耕していなかったそうです。誰か手伝う人がいないかな、声をかけてみようか

と言っているところです。

- 空いている畑を見つけるような仲介役の人や場所があって、コーディネーターの人がいて、ビニールハウスを使っていないならこうしませんかと提案してくれるような仕組みがあればいいですね。
- そうすれば高齢化して細々と農業をやっているところには若い力が入ってきていきいきするし、若手は高齢者から教えてもらえるし。私のまわりの同世代の友人は結構畑を探しているという人が増えています。でも、**市を通すとどうしてもややこしくなってしまう**んです。そういう時に**市民が間に入って話をしてくれたら、話も早いし、フェイス・ツー・フェイス**になっていいなと思います。

(3) 子育てのサポートをもっと多様に

- 親が遠くにいて子育てをサポートしてもらえません。**住みやすく環境はいいけれど、頼れる人がいない中で子育てするには、困ったことがたくさんあってサポートが足りない**感じがします。**ファミリーサポート**に登録しましたが、近くで利用している人がいなくて**使い方がよくわからなくて**利用できていません。**歯医者に行くために、わざわざ違う市の一時預かりを探して利用**したりしました。市の中で、そういうサービスを探すことができたならよかったのと思います。
- 本当に1～2時間預かってほしい**ことってありますよね。気軽に預かりますよというサービスを行っているところがあるとテレビでやっていたのを見て、そういうのが小平にもあるといいなと思いました。

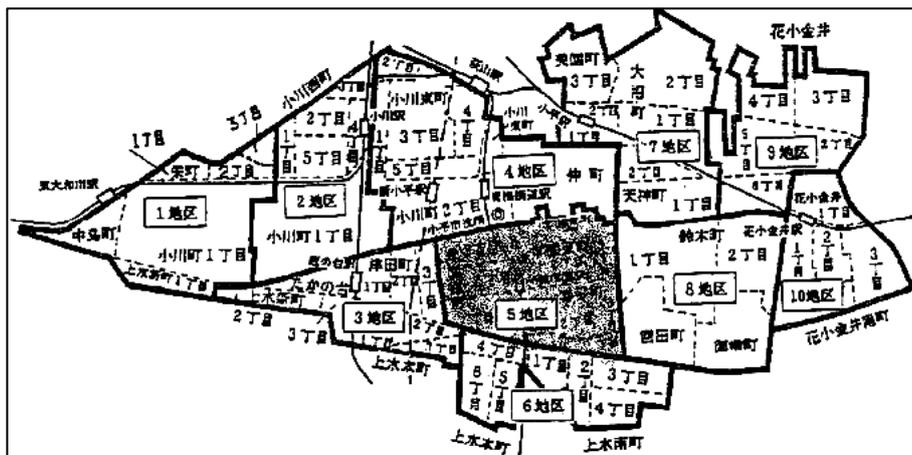
(4) 大人が輝く場づくりを

- 子どもの遊び場はたくさんあるけれど、子どもについて行っても親は見ているだけということが多くて、**大人がなにかできる機会がもっとあったらいい**なと思います。毎週、決まってというのではなく、もっと自由にやれるものがあつたらいいなと思います。
- 児童館で子どもたちが遊んでいる同じ時間に、大人は大人向けのプログラム**で手芸を教えてもらったりしてもいいですね。一緒に行って別々のプログラムを体験するのもいいですね。
- 夫は先祖代々から小平の人なので、親戚が地元のお神輿の連に入っているのです。それを息子さんが見て「かっこいい」と思っているんですよ。お祭りでやきそばを焼いているとか、太鼓を叩いているお父さんかっこいいとか、地域の人と仲良くしてかっこいい姿というのを見せてほしいですね。
- シニアになってから地域デビューということではなく、若い時から地域で活動する場というのがあるといいですね。そういう仕掛けというか、**大人がかっこいい場というのがあつたらいい**です。

コミュニティビジネスの種

小平市内には7つの駅があって商店も分散しています。小平市の特産品の魅力を知ってもらうために、まずアンテナショップをつくるというのはおもしろい発想です。行政だけでなく、市民の力を活かしてショップづくりをすることで、魅力的なものになると考えます。市内にまだ多くある農地を活かすことにも、市民の力が必要です。顔の見える、同じ市民だからこそできることがたくさんあります。同じ市民として顔の見える関係をつくるという視点は、いまある子育てサポートをさらに活性化する、新たな子育てサービスのニーズに気づくためにも必要とされています。こうした市民力をどう結集、組織化するか、市民のプロデュース力が問われています。

5. 第5地区 交通網、公共施設は充実、商店街にもっと活気を



●最寄り駅
西武多摩湖線一橋学園駅

●区内公共施設
学園西町地域センター
学園東町地域センター
小川町二丁目地域センター・児童館
健康センター
福祉会館
仲町図書館
平櫛田中彫塑美術館

(1) 商店街に活気がないのはさびしい

- 駅前には空いているお店がどんどん増えてきてしまってさびしいです。元のインドカレー屋さん、写真屋さんなくなってシャッターが閉まっているお店が増えています。ラーメン屋さんがドーナツ屋さん、そしてインドカレー屋さんになってという具合に、お店の入れ替わりが激しいです。
- 子どもの衣料品店がないのに一番不便**を感じています。スーパーがあって子どもの衣料品が、簡単に買えるといいなと思います。学園坂下には一軒あるにはあるのですが、サイズのにもう小さいし、かわいいものが多くて普段気軽に買うという感じではないんです。
- 私の友人も、子どもの衣料品が買えるようなスーパーが近くにほしいといっていました。**子どもの衣料品を買おうと思うと市内だと花小金井ぐらいなので、結局市外に出て大きなスーパーで他のものも買ってしまっ**うんです。
- 子どもが気軽に買い物にいけるお店**が商店街にあったらいいなと思います。
- こじんまりしていると温かみはあるのだけれど、それがかえって困る**感じというのもあるんです。お店に入ったらなにか買わなくてはいけないみたいな感じがあって、**入ってしまうと必ず買わなくては**いけないって思っています。
- コンビニのような感じでふらっと入って、買いたいものがなければ出てきてしまってもいいようなお店だったらいいですね。
- おしゃれなお店も少しずつ増えているからシャッターが閉まっているお店もなんとかあればいいの
にと思います。1つ1つのお店が狭いからねえ。

(2) お店をもっと情報を発信して

- ランチをしようと思っても、入るのにためらっちゃうお店が多いです。誰かが行っておいしかったと言われれば行ってみようかなと思うけれど、**知っている人と一緒じゃないと入らない**ですね。この間、友人に「ちい散歩」に出たお店に連れて行ってもらいました。かわいいお店だと思って前を
通っていたのですが、一人だったらなかなか行かなかったと思います。食べたカレーが、とてもお
いしかったので、また行きたいと思っています。

- 2～3人で行くとなると自転車をどこに止めようかなと考えなくてはならなくて、その時点で行くと思わなくなっているかもしれません。行ってみて良かったら、また人に伝えたり、行ったりするのですけれどね。
- 誰かが行ったことがあるという口コミと、ちょっと入ってみたくなるようなお店の見た目、雰囲気があると安心して入れます。
- お祭りなどがあると商店街には行きますよね。そして、こんなお店があるんだなと思います。
- ベビーカーで気楽に入れるお店があったら、もっとお客さんが入ると思います。一橋病院の並びの喫茶店は「ベビーカーでもどうぞ」とお店の前に貼ってあるけれど、あれはいいなと思います。
- 子どもとご飯を一緒に食べようというお店って近所にはないですね。ファーストフードぐらいですね。
- 中央公民館の先のお店に入ったら、入口は小さいのだけれど奥行きがあって広くて驚きました。お店にある程度の広さがあるとやはり入りやすいです。
- お子さまとご一緒にどうぞみたいを書いておいてくれると、「あっ、子連れでもいやじゃないんだ」とわかるのでいいですね。
- 子連れでも入れるお店のマップのようなものがあつたらいいですね。商店街共通の子どもOKマーク、妊婦さんが分かるマタニティマークがあるけれど、そういうものがあつたら入りやすいです。
- 新しいお店に行く時はネットで調べて、その後口コミで評判を確認してから行きました。同じようなお店があつたけれど、口コミの評判があまりよくなかったので、少し遠いけれど評判の良かったお店の方に行きました。ネットの評判って大切ですよ。

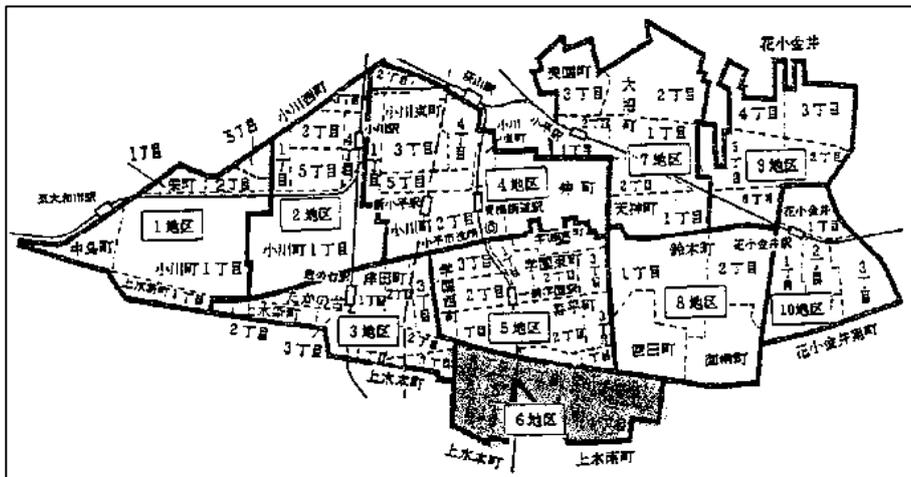
(3) 交通網、公共施設は充実

- 新小平駅に出るのが不便ですね。バスが1時間に1本ぐらいしかないです。他の交通網が便利だけに贅沢な悩みという感じではありますけれど。
- 小平駅に行くのは、にじバスが走ってから、とても便利になりました。西武バスとにじバスがほとんど同じ時間に来るのだったら、にじバスに乗りますね。
- この便利なところに、さらににじバスが走っていてなにか申し訳ない気がします。もっと交通手段のないところに走つたらいいのにも思います。
- 公共施設は中央公民館が近いし、津田公民館、仲町公民館も利用できるし、地域センターは学園西町の地域センター、図書館も中央図書館と仲町図書館を、子どもたちは昼間行く子たちは仲町、夕方は中央図書館という具合に使い分けています。

コミュニティビジネスの種

商店街は、地域の中でいろいろな役割を果たしています。ただものを買うやりとりだけでなく、子どもたちが仕事を知る場や、地域の人とコミュニケーションをとる場でもあります。ですから、商店街に元気がないのはさびしいと市民も思っています。一方で、ライフスタイルが変わって、ニーズも変わり、親世代自身が個人商店を利用することに不慣れだったりします。その時に、頼りにするのが情報です。口コミやインターネットで、情報を集めてから商店を利用します。商店がこうした地域のニーズに独自の力で対応していくことはもちろんですが、発信力のある市民を巻き込んで、情報発信をしていくことが必要になってきていると考えられます。

6. 第6地区 地域の資源・玉川上水を見直し、新たな可能性を探る



●最寄り駅

西武多摩湖線一橋学園駅
西武国分寺線鷹の台駅

●地区内公共施設

上水本町地域センター
ふれあい下水道館
上水南公民館・図書館上水南分室

(1) 地域の最寄り駅である一橋学園への移動は不安をとまなう

- 住みやすいと思うけれど、上水本町は小平市のはずれで、いろいろな行政サービスから取り残されているという感じがします。コミュニティバスも、五日市街道を渡って津田公民館まで行かないと乗れません。もう少し恩恵があってもいいと思います。
- 一橋学園駅まで行く道は、道幅も狭く歩道があるところも少ないんです。歩道があっても電柱があって、とても狭くなっていますし、歩道との段差もあるし、転んだりしたら自動車にひかれてしまうのではと、とても不安です。子どもを乗せていたりすると本当に怖い感じです。
- 一橋学園の商店街自体は悪くないのだけれど、行く途中が危険、駐輪場がないと近場のスーパーでいいかと商店街へ行かなくなってしまうです。
- 一橋学園駅方面に新しくパン屋ができたとか、喫茶店ができたと聞いても、自転車で走りながら目には入っていたとしても、今の道路の状況だと行ってみようとは思えないですね。
- あそこの道がのんびり歩けるようになったり、自転車でも不安がなく通れるようになったりすると人の流れが大きく変わると思います。
- 一橋学園の駅前にもっと駐輪場があれば、そこに止めてゆっくり買い物ができると思います。

(2) 玉川上水と平櫛田中彫刻美術館という観光資源は自転車で活かせる

- 玉川上水は小平の宝です。でも、玉川上水は雑木林で草が生い茂って暗いので、登下校の際には危険だという意見の人もいます。実際、あまりうっそうとしていると危険だとも思います。玉川上水の緑は大切に自然を残しつつ、安全を保つということはできないものなのかなと考えています。
- あまりこうこうとライトで照らしても、玉川上水の自然の趣というのがない気がします。あまりライトで照らすのは生き物にとってもよくないでしょうし。
- 玉川上水沿いの道を明るくしたり、防犯用ベルをつけて押せば近所の人が出てきて警察にも連絡してもらえるようにしたり、犬の散歩をする人や散歩の人が見守ってくれたりしたらいいと思います。
- 平櫛田中彫刻美術館も近くにあります。この間初めて行って、とてもいい所でびっくりしました。
- 平櫛田中はとても有名な人だからもっと宣伝すればいいと思います。いい観光資源だと思います。

駐輪場がもっとちゃんとあると、子どもと一緒に玉川上水周辺を走っていて、ちょっと寄ってみたいなというふうにもなりそうです。市内には東京都薬用植物園とか他にも観光資源があるでしょう。でも、**観光客用のレンタルサイクルってありますか？あれば便利だと思います。**

- 自転車移動できる環境というのはいいですね。**自動車だと点から点への移動という感じですけど、自転車だと周りを楽しめるのがいいと思います。**小平というくらいで、本当に坂がなく平らで自転車で動きやすいし、市内のどこへでも行けます。だから、自転車を活用したらいいです。
- リュックを背負って玉川上水を歩いている人は鷹の台駅から来ている人が多いですね。鷹の台駅は、玉川上水に一番近い駅だから、散策して平櫛田中彫刻美術館に寄って一橋学園駅や小平駅に出るルートができると、これまでと違う展開になっていきそうです。
- コミュニティバスが上水本町内に入ってきてくれるといいですね。観光でやってきた人も、お年寄りも一橋学園に行ったりするのに便利だし、小学生が習い事に行ったりするのもいいと思います。雨が降っても病院に行かなくてはいけないことなどもあるから結構使うと思います。
- 自転車や自動車を共有したらいいのではないかしら。**それで、あちこちに回るのもいいと思います。

(3) 学園都市としての発展を考える

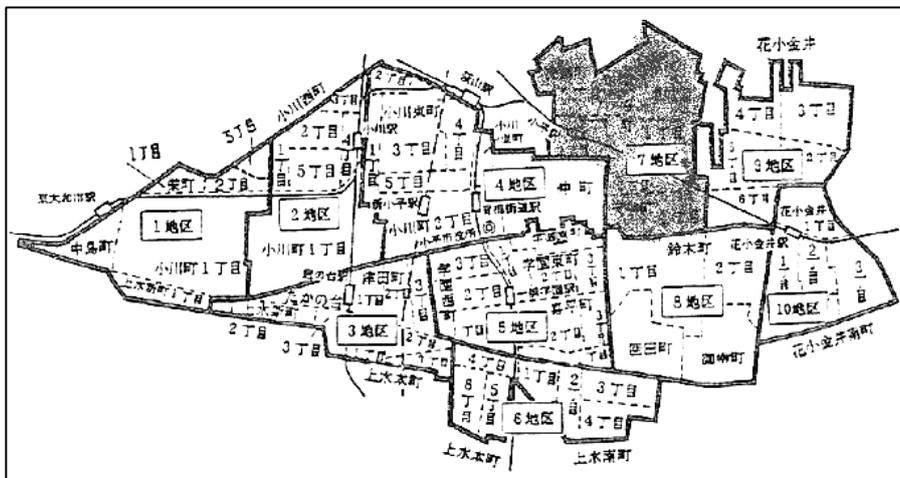
- 一橋大学**にはカフェテリアがなくなってしまったけれど、あそこは贅沢な空間で、あの広さなら子どもたちが自由にサッカーなどもできそうです。**あそこを小平に還元してほしい**と思います。
- 息子の行っている都立高校はカフェテリアでパンを毎日 20 種類ぐらい焼いていて、それを近所の方が買いに来ています。**そんなふうに地域にひらかれればいいのにと 생각합니다。
- 立派な建物があるのだから、カルチャーセンターみたいなものをやればいいと思います。一橋大学と連携でやれないでしょうか。近くに気軽に行けるカルチャーセンターのようなものがあつたら、暮らしの満足度も高くなります。
- プールなどがあるから使わせてもらえたらいいのにと 생각합니다。一橋学園の盆踊りも、あれだけ広い所が近くにあるのだから道路でやらなくて、キャンパスの中でやればいいのにと 생각합니다。あれだけの広さがあるのだから、もっといろいろに使えらと思います。
- コミュニティの中に大学があるというのはとてもいいと思います。そのキャンパスをオープンにして、地域に文化の香りが漂っている、地域と一緒に何かをやっていくというのはいいと思います。
- 学園都市というのは評価が高くて土地の価格も高くなります。だから、大学との連携をやれば小平市自体の評価が上がりますよね。

コミュニティビジネスの種

この地域は玉川上水の南側で、生活圏は隣接する国分寺市、小金井市にまたがっています。最寄り駅は3駅あっても、自転車かバスを利用しなければならないのがこの地域です。交通不便地域だから行政に頼るしかない、変えようがないと考えていた市民が、今回、地域の資源を見直し、市民の力でもできそうなことがあるのに気づきました。

コミュニティビジネスというにはやや規模の大きな取り組みかもしれませんが、玉川上水周辺の環境整備、レンタサイクルやカーシェアリングという仕組みづくりの可能性の模索、一橋大学の小平国際キャンパスの活用などの課題が見えてきました。

7. 第7地区 高齢化していく地域のニーズを市民の力でカバー



●最寄り駅
西武新宿線小平駅

●地区内公共施設
ルネこだいら
大沼公民館
大沼図書館
美園地域センター
大沼地域センター
小平ふるさと村
天神地域センター

(1) 中高生にも居場所をつくらう

- 子どもは地域センターで遊べるけれど、**中高校生がいる場所、使える場所がない**ですよね。**ルネこだいらの広場で、高校生がダンスの練習をしているのだけれど、遅くまでやっている**と近所の人に「うるさい！」ってどなられてかわいそうな感じがします。私にも、高校2年の息子がいるので、バンドやダンスの練習をしたい子たちに貸せる施設があったらいいなと思います。ストリートダンスなどでも、やっている子はいっしょうけんめい練習しています。
- 小平は長く住んでいますが、その部分は昔から変わっていませんね。若い人たちがちょっと気軽に借りられる場というのはありませんね。
- 地域センターは割合、夜遅くまで開いているけれど、集会施設だからダンスの練習には利用しにくいかもだろうし、しかも18歳以上ではないと借りられないし。
- イギリスには、**教会がらみのもので若者が低料金で借りられる施設が割合あります。**
- 部活をやっていない中高校生は行き場がないから、そういう子たちがもう少し健全に集まれる場所があるといいですね。お金がある子はカラオケとかに行くのでしょうか。

(2) 暮らし続けていくためにほしいサービス

- 小平駅前の公団住宅の1人暮らしのおばあさんが、**毎日ルネこだいらのレストランに食べに**いってました。**やっぱり人のいるところで食べたいから**と通っていたらしいです。だから、**地域センターと公民館で、高齢者がちょっと食べられるような、学食みたいなものがあれば**気軽にいけるのではないかしら。安くて毎日いけるようなところ、囲碁や将棋をやっているその横でうどん、蕎麦が食べられようようなところがあれば、1人暮らしでももう少し外に出ていくかもしれませんね。
- 祖父母のために宅配の弁当を使っていたことがありますが、あまりメニューが選べない**のです。毎日違うメニューではあるのですが、残ってしまうことが多かったのをやめてしまいました。高齢者になると、食べられるものが決まってしまうので、**肉なら肉、魚なら魚の中でおかずを選べたりしたら**少しは違ったのかもしれないです。
- たぶん一番、高齢者が困っているのは大沼団地ではないですか。高齢者は多いけれど、お店は近く**

にはないし、歩いてはいけないし、みんなどうしているんだろうと思います。女性の1人暮らしだったら、なんとか作っているかもしれないけれど**男性で1人だったらまず作らないでしょう。**

- 移動販売車のパン屋が来ていておじさんが牛乳を何本か買っていました。こういうところで買ったと思いました。**パンは少しだけで牛乳を何本も買っていたから、お使いには行かないんですね。
- お茶が飲めるとか、ちょっとおにぎりが買えとか、その程度でいいから食べ物が買える場所を地域に増やしたい**ですね。学園坂のタウンキッチンのように、そこで作るとなると結構限られた人しか実現できないと思うけれど、地域のお店で販売しているものを何種類か一緒に地域センターなどで売る。そういうものが増えたらいいと思います。
- 食べ物、飲み物ってコミュニケーションをとる時に、少しあるかないかで雰囲気はまったく変わってきます。小平市は、きめ細かく公共施設が建てられているからそれを利用できたらいいですね。
- 公共施設の規制をもう少しゆるくすれば実現できると思います。**家賃さえ払わなくていい状況ならば、そういう小さいビジネスはできるでしょうね。**あるいは家賃を補助してくれるとか。
- 私たちが年を取るまでに仕組みを考えて、実際に年を取ったら利用できるように今からしたいね。

(3) コミュニティビジネスを始めようという担い手にあったらいいもの

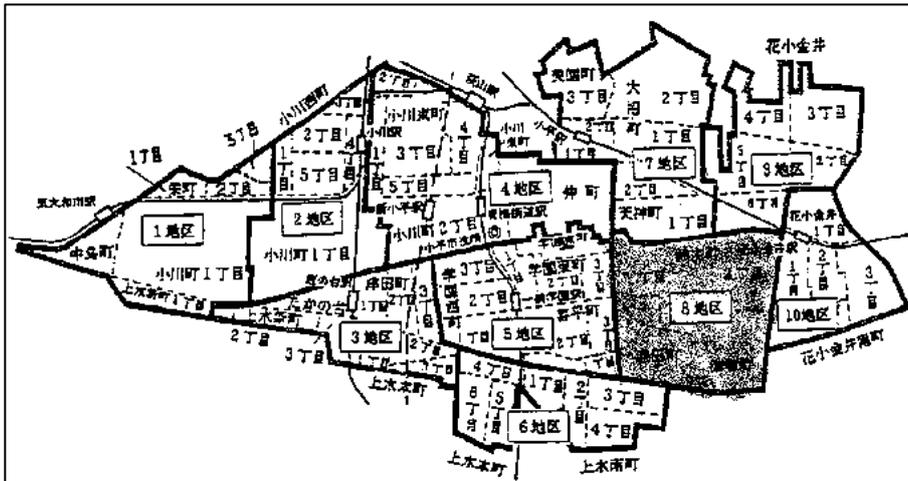
- まず場所が必要だけど、公民館や地域センターでやることにして、働きたいという人も、徒歩何分以内ということであればいいと思います。飲食店をやるために必要な資格があるから、それを取るための資金を補助してくれるといいですね。**シルバー大学っていうのはあるけれど、主婦の学びの場はないですよ。もう少し、働きたい人にお金を使ってもらってもいいと思います。**
- 女性の場合、やりたいことはあっても資格を取るためにお金がかかるとなると、子育て中は子どもにかかってできないとなってしまうでしょう。それをフォローできる仕組みがあるといいですね。
- 子どもが小学校1年生ぐらいまで帰ってくるのが早いので、**近所で短い時間でも働けるなら「ちょっと行ってくるね」と気軽に働ける**からうれしいです。
- 1時間でも2時間でも手伝えとなれば、小学校や幼稚園のお母さんは名乗りをあげてくれる人が集まると思います。仲間でやると楽しそうです。仕事というより仲間のつながりができそうです。
- 近くに仕事場があると、衣食住と収入が地域で得られて一番いい**と思います。たとえ、お小遣い程度でも収入があるのはうれしいです。
- 近くにグリーンロードがあって、番組で取り上げられたりしているし、歩いている人も多いから、そういう人をターゲットにしたことをもっとやればいいと思います。**住んでいる人というより、来ている人に小平はおしゃれねと思ってもらえたらいい**と思います。

コミュニティビジネスの種

この地域には、大沼団地など大きな集合団地がいくつかあり、その中には高齢者が多く暮らしています。こうした高齢者の問題は、今後、大きな地域の課題となってくると考えられます。それを解決するためには、地域の市民の力が不可欠です。地域センターなどを拠点に、高齢者の「食」の問題を地域で解決していく仕組みを作るというのは現実性があります。その仕組みを継続させていくためには、ボランティアではなく小さな規模であってもお金が回るようにしていかなければなりません。

地域には、多様な市民がいて、さまざまな働き方を望んでいます。住まいの近くに仕事を生み出すコミュニティビジネスならば、子育て中の女性にも働く機会を提供することができます。

8. 第8地区 環境はよく暮らしやすいが、地域のサービスには向上を期待



●最寄り駅
西武新宿線花小金井駅

●地区内公共施設
鈴木地域センター
鈴木公民館
御幸地域センター

(1) 豊かな緑で環境はいいが利便性は少ない

- 小平市は坂がなくて、高齢者や主婦には暮らしやすいと思います。緑が多くていいですね。野菜の直売所もたくさんあって、安全な野菜が食べられるのもうれしいです。スーパーには自転車で行きますが、大きなものとかは買うのをあきらめることがたまにありますけれど不便は感じません。
- 緑が多くて住みやすいところだと思います。ただ、**移動手段はもっぱら自転車**で、玉川上水沿いの道を使うのですが、**自転車同士や、自転車と歩行者の事故が結構あります。それが心配です。**
- 引越してきた時は緑もたくさんあって、近くに畑もあって生活環境がよくなったと喜んでいたのですが、**ここまで交通の便が悪いとは思わなかったです。**友人は3人子どもがいて車がないので、お互いに子どもを預かりあったりして、用事を済ませています。
- 勤め先がこの近くだったので小金井市から引越してきました。ですから、買い物などは小金井市で済ませることもあります。不便なところなのは承知で引越してきたので暮らし心地は満点です。でも、市役所に行く用事があった時は、どうやって行ったらいいのと戸惑いました。にじバスは来ていないし、いったん武蔵小金井駅に出て国分寺駅経由で行きました。利便性は悪いですね。
- 地方に住んでいる両親が訪ねてきた時に、緑の多いのんびりしたところだねと言われました。そのくらい緑が多いところですよ。

(2) 子育て、介護のサービスに望まれる多様性

- 介護の仕事をしているのですが、**施設の数小平市内には少ないように思います**ね。施設の数が少ないのでサービスもやはり少ないです。もう少し多様なサービスがあってもいいと思います。
- 私が関わっているNPOは、もう30年も前から地域で介護のことをやっています。NPOの制度ができるずっと以前からですよ。素晴らしい活動だと思います。
- この地域は学校ぐらいしか、子どもの集まる場所がないんです。中学校は3クラスしかなくて人数が少ないし、顧問の先生がいないと部活もできません。数が少なくなって選べなくなってしまうので、小学校と中学校が連携して活動ができるようにしてもらえたらいいと思います。先生同士の個人的なつながりで、そういう活動をしているところが市内でもあるそうです。

- 居場所がないのは幼児も同じです。目の前は五日市街道なので、玉川上水沿いの道なら安全かと思って子どもと歩いていたら、自転車に乗っていた男性にどなられてしまいました。一番近くにあるのが御幸地域センターですが、小学生が大勢遊んでいて小さい子どもは遊べない雰囲気です。
- 幼稚園でもそうですが、児童館や公園なども近くに住んでいるママ同士がグループを作っていて、なかなか仲間に入りにくいんです。だから、近くに遊びに行くところもないし家の中にこもりがちになってしまった時期がありました。
- こうした地域なので新生児が生まれた後の訪問サービスなども、もっと充実していただければいいなと思いました。**不便すぎる場所なので、子どもが少ないのかな**とも考えてしまいました。

(3) 人と人の絆で、暮らしを守る

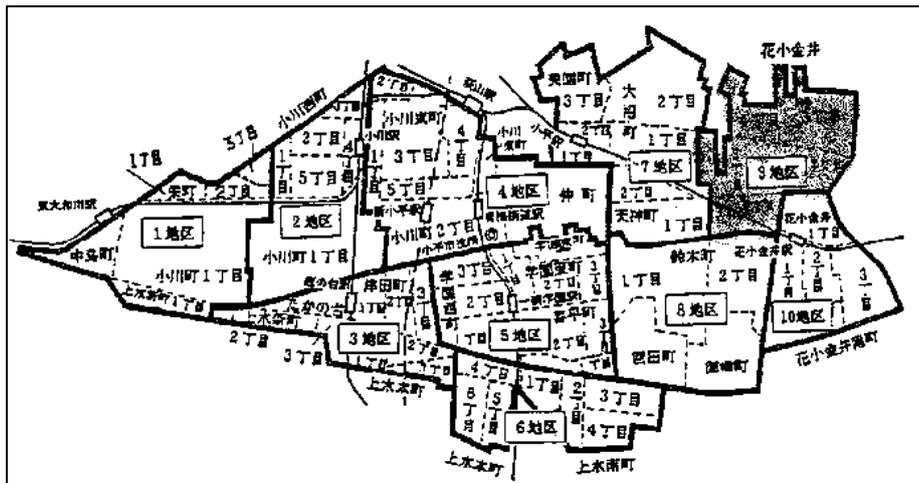
- もともと住んでいた人たちと、新しく暮らし始めた人たちの間には地域への思いが違っていると思います。この地域には幅広い世代の人が暮らしていると思います。70代ぐらいで1人暮らしが難しくなって家を売ったりする人がいるようで空き家が増えてきています。世代によっても生活感は違いますよね。
- 住んでいる人同士が地域で助け合うというのがいいと思うのだけれど、**助け合う前に知り合いにならなければ助け合えない**ですね。
- 今日のような出会いの場があるといいのですが、その場がないですね。お茶の飲めるような場所で、お話できるとお互いがわかっていいと思います。
- 家の近くの農家に子どもと一緒に出かけに行って、おばあさんとお茶を飲んだりすることがあるんです。帰り際に野菜を分けていただいたりして帰ってくるんですが、なんとなくほっとします。
- 花小金井にある「風のシンフォニー」のようなカフェが近くにあっていいなと思います。ゆったりとした気分になると、いろいろなことが話せます。
- 誰が行ってもいいというような場所があったらいいと思います。近くの地域センターでとりあえずそんなお茶の会をしてもらえたらいいですね。
- 地域センターなど公共の施設になると、いろいろ決まりがあってできないこともありますよね。空いている家などでひらいた方が、自由にやれると思います。
- 私は最後までここで暮らしたい、ここを終の棲家にしたいと思っています。ですから、そのために地域にどんなものがあるのか確かめながら、少しずつ準備をしていきたいと思っています。ですから、**近所にどんな方が暮らしているのかも知りたいし、自分からも場を作って知り合いを増やしていこう**と思っています。「まちの縁側プロジェクト」というのを進めていこうかと考えています。

コミュニティビジネスの種

暮らしている人が多様なこの地域は、これからも少しずつ構成員が変化していきます。その中で、新たに人と人が出会い、絆を作っていくことが重要になってくると考えられます。行政が提供するサービスの向上も求められますが、そこに暮らす市民が目的をもって作るコミュニティが中心になって地域が変わっていくと思われれます。

市民同士の出会いの場が生まれることによって、子育て支援や高齢者の見守りといった仕組みが、ゆっくりであっても市民の力で生れていく可能性があります。すでに地域にある資源、場やネットワークとゆるやかに結びつけば、その実現性が高まっていくことでしょう。市民が当事者として暮らしやすさを真剣に考えていくことが、コミュニティビジネスの種といえるでしょう。

9. 第9地区 暮らしやすいまちを、市民の力でさらに魅力アップ



●最寄り駅
西武新宿線花小金井駅

●地区内公共施設
花小金井北公民館・図書館
花小金井北分室
花小金井北地域センター
東部公園プール

(1) 暮らしやすさのあるまち、整備してほしいのは道路、交通サービス

- このあたりは緑が多いです。子どもができて以前にもまして実感していますが、気軽に遊べる場所も多いですね。公園があちこちにあるし、少し行けば大きな小金井公園があるし。**ほどほどに田舎っぽい、便利過ぎないところが私は好きです。**その半面、インフラが整っていない部分があるかなと思うところもあります。雨が降ると自宅の前の下水があふれてしまったりすることがありました。また、**自転車が多いのに歩道と車道が整理されていないのが気になります。**
- 緑が多いのがいいです。公園も多いですし、グリーンロードがあって子どもと一緒に少し遠くに行くにしても、安全に行かれるのがいいです。たけのこ公園が近いので、子どもが毎日のように行っています。主婦の目線で行くともう少しスーパーがほしいですね。
- 私は生協を利用して、野菜は近くの直売所で買っています。
- 花小金井駅前がきれいになったけれど、あまり都会風になっていないのがいいと思います。**以前は意識していなかったけれど、グリーンロード沿いの桜は見事だと思います。
- コミュニティタクシー・ぶるべー号**は、始まった時は買い物などに使えるかなと思ったのですが、**座席が狭くてベビーカーが乗せられないのが残念です。**
- 小平って災害の心配がないというのが何よりかと思います。**地震があっても山崩れがない、洪水の心配もないというところが安心して暮らせます。**

(2) 求められているのはきめ細やかな子育てサポート

- 花小金井南児童館は、はいはいしているような0～1歳の時はいいかもしれないけれど、3歳になってしまうと狭すぎて遊べないです。美園地域センターで開かれている子育て広場はよく利用しています。広くていいと思いますが、遊具があまりないのでもう少し充実していたらと思います。
- 私は東久留米市の児童館に通っています。**年齢ごとのクラスがあって名札も準備されています。季節ごとの工作をしたりしますが、素人目に見てもすごいと思う工作の材料が揃えてあります。児童館に通い出したのは、まわりのお友だちがみんな行ってロコミで教えてもらいました。みんなお弁当を持って行って会が終わった後、スペースがあってお弁当を食べて帰ってくるんです。そ

のスペースには絵本がおいてあるので、子どもたちは飽きたらそれを読んでいて、お母さんたちはゆっくり話を楽しんでから帰ってきます。

- 地域の中にお弁当が食べられる場所がないですね。**私も雨が降ったりして外で遊べない時に、ここでお弁当を食べられたらよかったのにと感じたことがありました。**地域センターにそういうお弁当が食べられるスペースを作るとか**、公民館でお弁当を食べられるようにしてほしいです。
- 子連れでちょっとゆっくり食べられる小上がりがあるようなお店があったらいいなと思います。
- 個人的にあんみつ屋さんがほしいと思います。地域のお店であまり狭いといったん入ると出にくいから、ある程度広ければ入りやすいです。
- 緑を残したいと思っていても、**かなりマンションは建ちました。**私も開発でできたところに暮らしているのですが、**自然を壊すのは簡単だけれど、維持していくのは大変ですからもったないですね。**このあたりは、とても人口が増えていて保育園、幼稚園は足りるのかなと考えます。
- 私が通わせている幼稚園は、まだ入れないという状態ではないですね。でも、近くの認定子ども園は預かってくれる時間が長いので人気があって入れないようです。
- 保育園の待機児童は多いですね。働く人が増えているということだと思います。**
- 幼稚園や中学校の制服は卒園・卒業してしまったら、家で眠ってしまうことになってしまうのだから、バザーかなにかでうまくリサイクルできる仕組みがあったらいいですよ。
- あまりエコにしすぎると地域におカネがまわらなくなりますが、地域振興券などを使って仕組みを作ればうまくいくようにも思います。

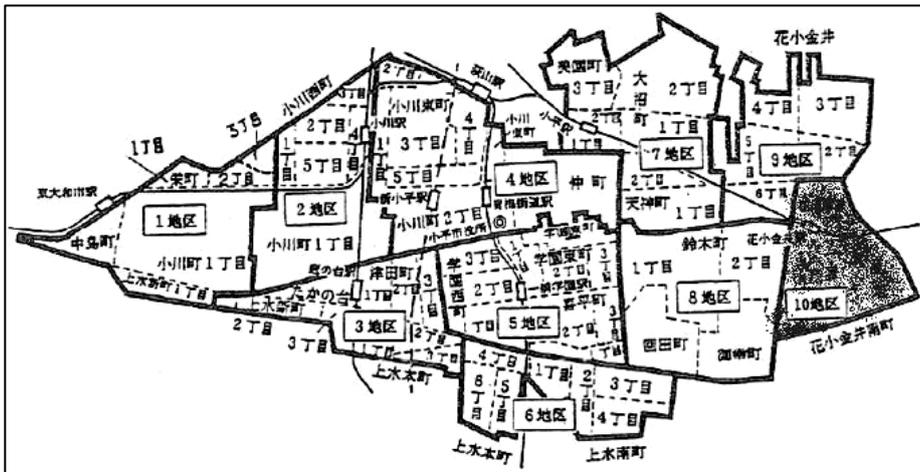
(3) 地域にある異年齢の交流の機会と場

- 昨年3月から介護が始まって介護保険の仕組みがやっとわかってきましたが、不思議な仕組みだと思っています。この仕組みを継続させていくために、利用者もよく考えて利用していかないといけないなと思っています。
- 介護の実際を聞いて、年代を超えて集まれる場や機会がほしいと思いました。**こうしていろいろな世代の人が集まってきて、話をするとその暮らしがわかります。
- お年寄りはお手玉とか昔遊びが上手なので、老人ホームに子どもと一緒に遊びに行かれたらいいなと思います。昔遊びを教えてください。
- 実際、地域のいくつかの高齢者施設では、地域の人が入ってきて利用できるようにしています。赤ちゃんのおむつ替え用ベッドが備えつけてあったり、曜日を決めて若いお母さんたちとの交流会を開いたりしています。

コミュニティビジネスの種

子育て世代が今後も増えていきそうなこの地域では、幼稚園、認定子ども園、保育園というこれまでの子育て支援の他に、新たな子育てサービスのニーズが見込まれます。例えば、病児保育、一時預かり、習い事への送迎サービスなどが考えられます。また、新しく小平市民となった人たちに、地域の情報をどのように伝えるかという情報サービスなども必要になってくると思います。こうしたニーズに柔軟に対応できるのはやはり市民です。地域が成長していく速さに対応して、必要なサービスを自分たちが担い手となって作り出し、まちを暮らしやすく魅力あるものにしていく。そんな地域になっていくと考えられます。

10. 第10地区 花小金井駅の南と北で暮らしやすさに違い



●最寄り駅
西武新宿線花小金井駅

●地区内公共施設
東京都小平合同庁舎
花小金井南公民館
花小金井南地域センター・
児童館
東部市民センター
(花小金井図書館)

(1) 交通の便のよさはまちの魅力の1つ

- 花小金井駅からは新宿が近いです。**家を買うのに何駅か新宿寄りの上石神井あたりと花小金井では価格差はけっこうありますが、通勤時間は10分ぐらいしか変わりません。**こういう理由で、このあたりに家を買う人は多いと思います。わりと便利で、価格的にも手ごろということですね。
- 私は、実際に上石神井と比べて花小金井の方が家が広くて、環境がいいというのでここを選びました。家を買うタイミングで調べて、ここがいいかなと思って選びました。
- 夫の職場が新宿で30分以上は電車に乗りたくないというので、ここを選びました。西武柳沢なども見たのですが、このあたりにくらべるとごちゃごちゃして区画がきちんとしていませんでした。花小金井は駅前が整備されていて、夫は魅力がある所だと判断して購入したようです。
- 花小金井駅の南側のスーパーには輸入食材があるので、お客さんの来る時にはチーズやワインを買いに行きます。**
- 南口には大きなマンションがいくつも建って、少しお金持ちの人が多くですよね。また単身者が多く住んでいます。

(2) まちにこれからほしいサービス

- 花小金井には、おしゃれな買い物をするところがありません。ぶらっと入って楽しいお店があまりなくて、おしゃれ度が少ないように思います。**日常のものは足りているけれど、雑貨とか洋服とか、少ししゃれたものを扱っているお店があったらいいの**にと思います。
- 私は南側に住んでいるのですが、駅から2キロ弱なので歩いては駅まで出られなくて、バスか自転車になってしまいます。バスの本数があまりあるわけではないし、コミュニティバス「にじバス」は来ていないんです。大人だけなら自転車でもいいのですが、**子どもを乗せて移動するとなると歩道がきちんとあるわけがないので怖いです。**花小金井駅の南側は交通の便が悪いです。
- 小金井街道の交通量が多くて、安心して子どもを外に出せません。東京街道も歩道が片道しかないところがあるし、歩道のあるところでも電柱が出ていて狭くて、子どもにとってはとても危険です。
- 11月に大沼町から引っ越してきたばかりです、比べると花小金井の方が住みやすいです。ファミリー向けのおしゃれなお店があるといいと思います。

- もっといろいろな配達サービスがあったらいいと思います。ネットスーパーと、米屋さんに配達してもらっています。灯油は配達してもらえないので、灯油缶を自転車で運んだことがあります。スーパーまで距離があるし、駐車場にとめると代金もかかるので、こうした**重たいかさばるものを配達してほしい**です。子どもが小さい時はとても困りました。
- 市役所周辺へのアクセスが悪い**のが困ります。健康センターには子どもの検診で行くことが多いのに、アクセスが悪くて困ります。最寄りの青梅街道駅は無人駅みたいで、道を聞くのにも困って駅から健康センターに行くのにとても時間がかかりました。
- 車を運転しない人が、健康センターに行くのにはとても困ります**。車を乗り合いにして行きました。

(3) 子育てサポートは小学生になってもほしい

- 働いていないので学童クラブには預けられないけれど、兄弟の関係でいろいろな用事がある時に上の小学生の子どもの行き場所がないんです。しょっちゅうお友だちに預けるといふわけにはいかないので、どこかに行くのではなくてそのまま2時間ぐらい学校で遊ばせてくれるようなサービスがあったらいいですね。勉強を教えてもらうのではなくて、誰かが見守ってくれるというようなサービスです。
- 幼稚園の時には用事の内容によらず子どもを預かってくれたので、それを体験して小学校に入ると、この不便さはなんだろうと驚きました。
- 下の子が具合が悪くて病院に連れていく時に、元気な上の子まで連れていきたくないですね。そういう時にご近所感覚で、ちょっと預かってくれる人とか、サービスがあったらいいなと思います。
- ファミリーサポートセンターは、登録制で使いにくいですね。提供会員の方に家に来てもらって、家を見てもらって面接してから利用するというのはかなりハードルが高いです。
- 学童に代わるような気軽に小学生を預けられるサービスがあれば、他市との違いになってそれがきっかけになって小平に住もうかということにもなると思います。差になりますよね。
- 小学生がいったん学校から帰ってから出かける場所がないです。幼稚園の時は幼稚園が終わって、そのままそこで習い事をしてきたから、安心だったのですけれど。
- 遊びに行ってきたと、子どもを1人で送り出すには道路のこともあるし、不審者が出たりしたりこともあるし、危ない環境です。
- シニアの方の見守りとか、囲碁教室、習字教室なんていいと思います。まだこの学区の学校でお試しで月2回しか行われていませんが、七小ではすでに実施されているみたいですね。囲碁、よさこい、大正琴があるそうです。

コミュニティビジネスの種

鉄道の便がいいことが地域の魅力になっていて、新しくこのまちに暮らす人が増えています。その一方で、地域の中で移動するには不便な面があります。花小金井駅の南側と北側で暮らしの満足度には差があります。こうした課題を解決する交通サービス、さらに子どもたちの成長とともに必要とされる幅広い年代層への子育てサービスは、今後も必要とされ続けていくと考えられます。地域情報へのニーズも、たくさんあると思われます。

こうしたいろいろな新しいニーズに、柔軟に答えていけるのは市民です。すでに地域あるもの、暮らしている人、そして新しくここに暮らし始めた人をネットワークすることで、暮らしやすくなり、まちの魅力がさらにアップしていくと思います。

4-4 グループインタビューから見えてきたこと

1. 小平市に共通している課題

今回グループインタビューを実施して、この市が共通して抱えている問題と地域ごとの課題の違いがはっきりとしてきました。

どの地域でも大切な資源として語られたのは、玉川上水、野火止用水のある小平グリーンロードと豊かな緑です。小平市内には7つの駅がありますが、それぞれの駅と駅をつなぐ公共交通が少なく、自転車が市民の足として大きな役割を果たしていることもわかりました。

自転車が市民の足として大きな役割を果たしているにもかかわらず、道路の整備が十分とはいえず、ほとんどの地域で道路を自転車で走ることへの不安が話題となりました。

新たな公共交通、にじバスとコミュニティタクシーについては、走ったことによって改善されたという意見はあるものの交通網整備は十分とは言えないようでした。また、点在している公共施設、公民館と地域センターの利用方法の検討、活用化も話し合われました。

2. まちは生きている

市内の中でも、高齢化が進んでいる地域か、新しい市民が増えている地域かなどによって、求められているサービスは多様でした。同じように公民館と地域センターの活用といっても、高齢者の多い地域では高齢者のための食を提供する場として、子育て世代が多い地域では子どもたちの遊び場、居場所としての場としてその活用が求められていました。

当初は同じ目的で作られたものであっても、その使い方が変わってくるのは、地域の構成員が常に変化しているので当然の結果です。今ほしいサービスが、数年先には必要のないサービスになっていることもあるかもしれません。迅速な対応の求められる課題への対応は、やはり当事者である市民が仕組みをつくってサービスをしていくことが一番いいのだと改めて感じました。

一方、道路などの大きなインフラ整備に関しては、コミュニティビジネスで解決できる課題ではありません。地域の資源としてのグリーンロードを整備するのは行政の仕事ですが、それをどのように活用していくか、どのように魅力的に演出するかなどを考えるのは、市民の方が得意であるかもしれません。今回のインタビューでも、ここに掲載した以外にたくさんグリーンロードの活用アイデアが語られました。暮らしていて日頃からよく知る人ならではの視点も多く、まちづくりをしていく上で市民の視点というのは不可決であることを改めて感じました。

地域で暮らす市民は、それぞれに多様な才能とネットワークを持っています。市民がまちのことを当事者として考えた時、こうした資源が始めて地域に還元され、また1つ新たなまちの魅力が生み出されていきます。

行政だからできることと、市民だからできることはそれぞれ違います。でも、お互いの強みを活かしていくことが、これからのまちづくりには不可欠なことと考えます。

市民が力を活かしていくために必要なインフラを作っていくことも、行政の大きな役割といえます。さまざまなコミュニティビジネスがあるまちは、やはり暮らしやすいまちだと思います。今回のインタビューでは、コミュニティビジネスの種がたくさん見つかりました。

今後は、これらを育てていく仕組みを、整えていくことです。

第 5 章

小平市の 満足度・ここが足りない・ここが自慢 ～アンケートより～

5-1 アンケート調査の概要

5-2 アンケート結果

第5章 小平市の満足度・ここが足りない・ここが自慢 ～アンケートより～

5-1 アンケート調査の概要

1. アンケートの目的

このアンケートは、コミュニティビジネスの消費者である市民の意識を調査し、小平の課題、ニーズ、地域資源をつかみ、今後の小平のコミュニティビジネスのマーケティング資料を提供することを目的としています。

2. 主なアンケート内容

- ・小平市の暮らしの満足度はどのくらいか。
- ・小平市に暮らす中で「ここが足りない」と思うものは何か。
- ・小平市に暮らす中で「ここが自慢」と思うものは何か。
市内の友人にクチコミしたいお店やサービス。
市外の友人が遊びにきたら、案内したい場所。

3. 実施の方法

(1) 実施期間

平成 23 年 1 月～3 月

(2) 対象

小平市在住の市民

(3) 回答方法

① Web アンケートフォームで回答

メールリストやブログ、ツイッターなど Web 上で幅広く呼びかけ、アンケートフォームに直接入力によりデータを収集。

② アンケート用紙で回答

アンケート用紙をグループインタビュー参加者、知人などへ直接手渡して配布。

4. アンケート集計

(1) 回答者の基礎データ

① 回答数

100 名

② 属性

男女比：男性（38%）女性（62%）

年齢分布：20 代（7%）30 代（26%）40 代（33%）50 代（23%）60 代以上（11%）

居住年数：5 年未満（7%）5～9 年（26%）10～19 年（33%）20 年以上（44%）

家族形態：1 人暮らし（8%）2 人家族（15%）3 人家族（22%）4 人家族（31%）5 人家族（13%）
6 人以上（11%）

仕事形態：フルタイム（34%）パート（23%）自営（15%）無職（19%）その他（9%）

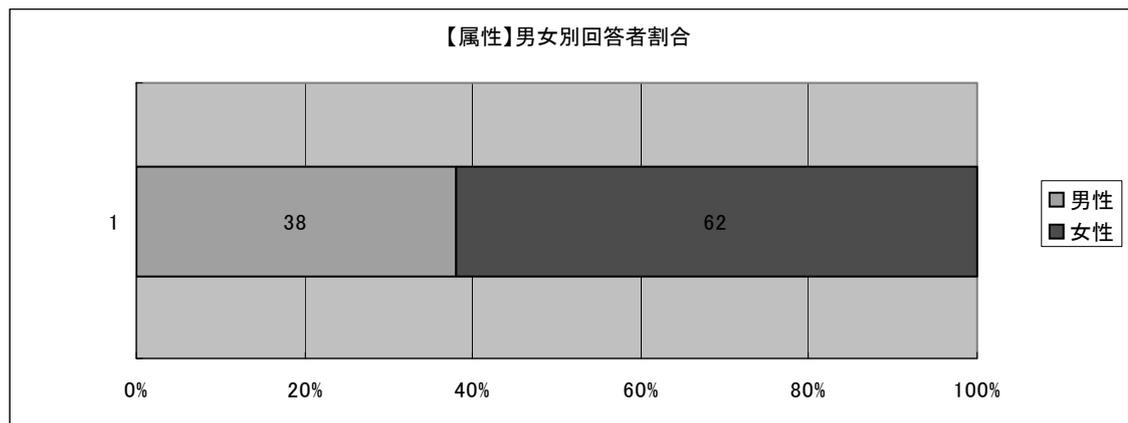
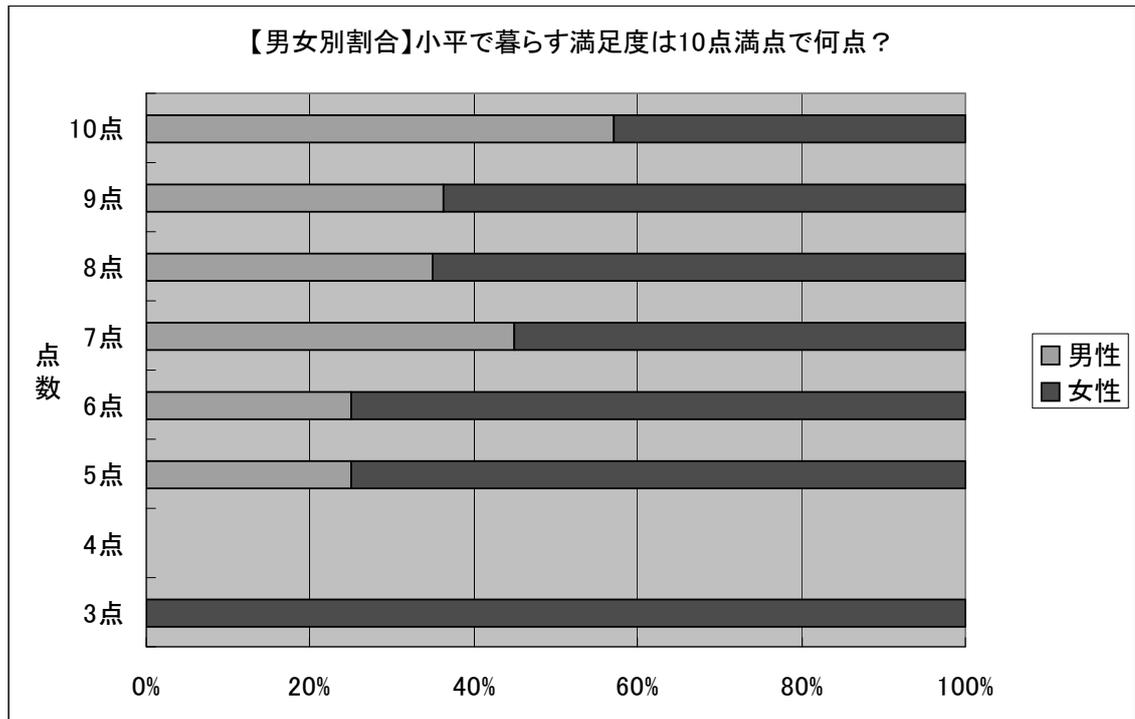
5-2 アンケート結果

1. 小平の暮らし満足度

「小平市の暮らし」について、10点満点で何点かを尋ねたところ、**平均点は「7.6点」**でした。

(1) 男女別暮らし満足度

女性は辛口。男性の満足度は高め。

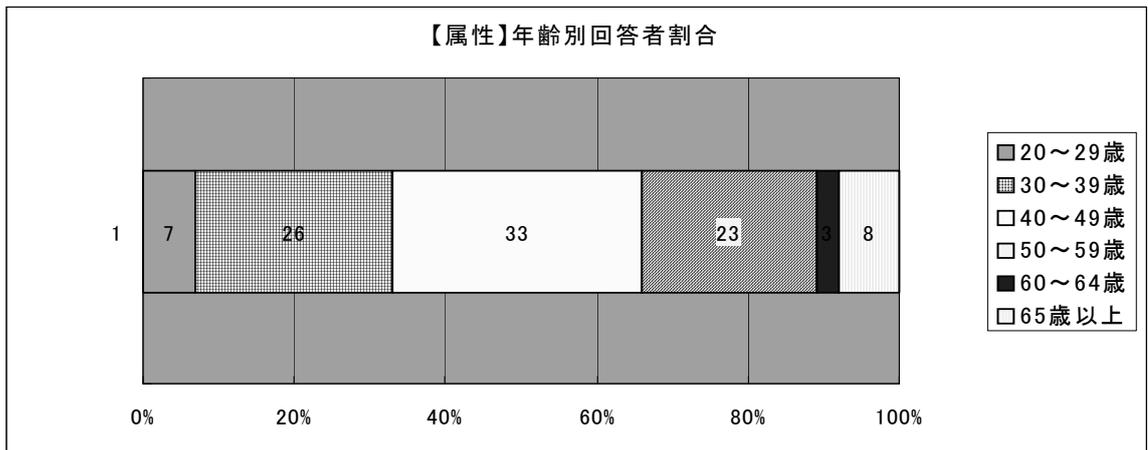
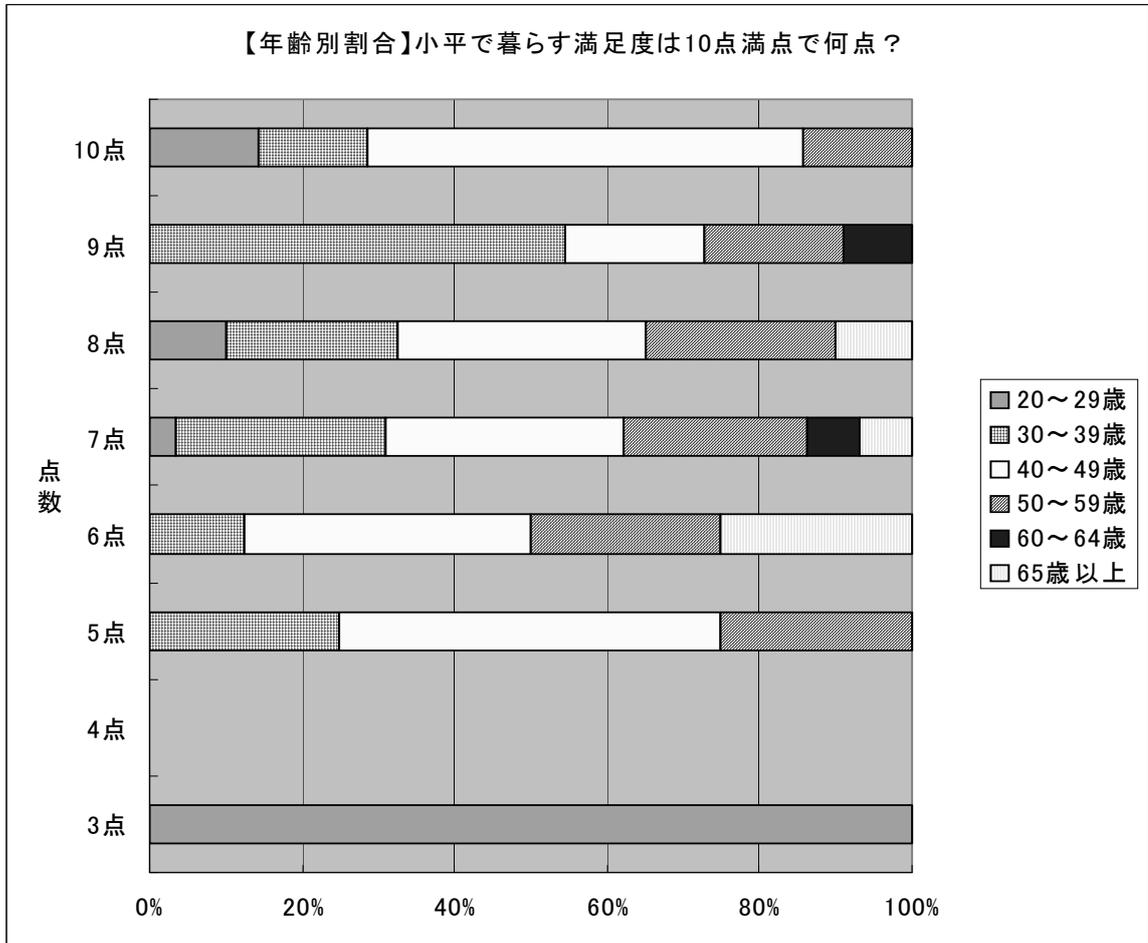


【分析】満足度を6点以下と答えた女性の割合が高いのが目立ち、女性の平均は7.5点でした。男性は平均7.8点と、満足度は高めでした。

【読み取れること】女性に辛口な採点が多いのは、日頃、買い物や近所付き合いなど、地域との接点が多く、現実の小平の様々な課題を意識していることによるのではないのでしょうか。一方で生活感から遠い男性の満足度は高めとなっているようです。

(2) 年齢別暮らし満足度

評価が低めの60代以上。

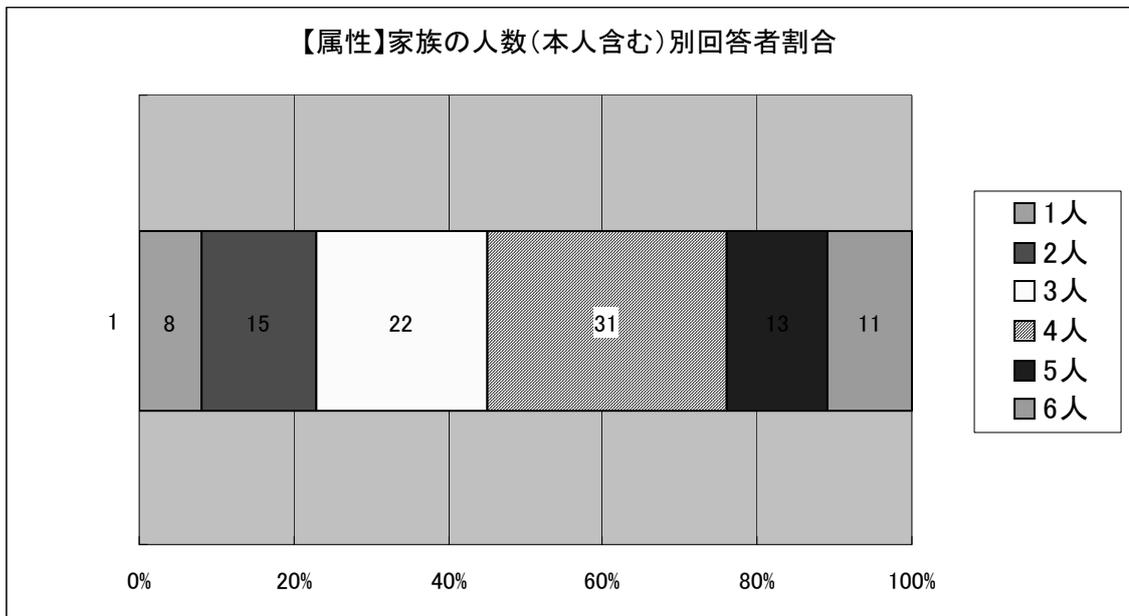
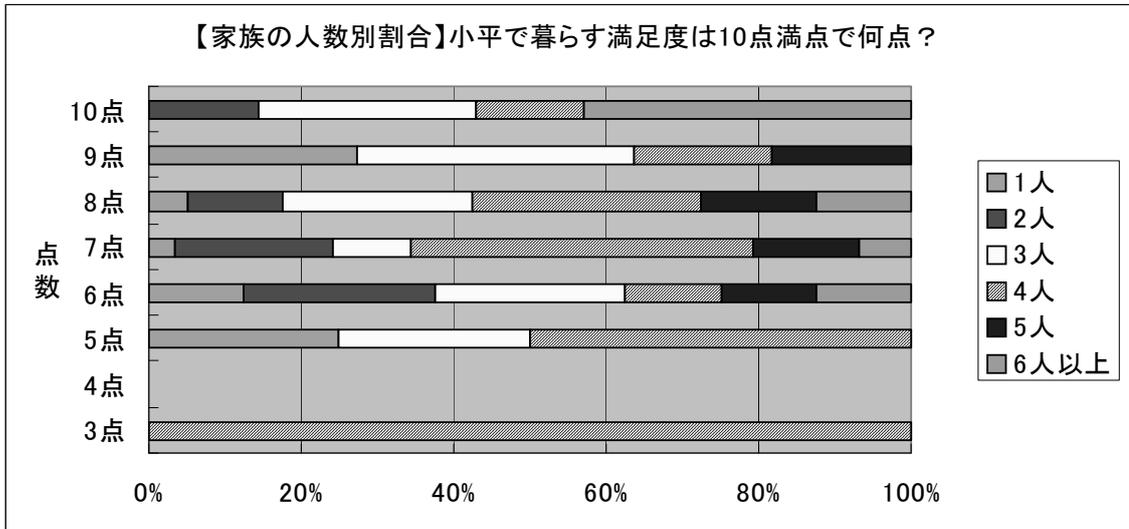


【分析】30～50代の層の満足度は5点から10点の間に、また、60歳以上の層の満足度は6点から9点の間に分布しています。満足度の平均が高いのは30代（7.8点）で、60歳以上の層の満足度は平均7.3点と低くなっています。

【読み取れること】シニア層の方たちがどこに不足を感じているのか。そこにCBの可能性があると考えられます。

(3) 家族の人数別暮らし満足度

大家族層の満足度が高い一方で 4 人家族層は低めな評価。

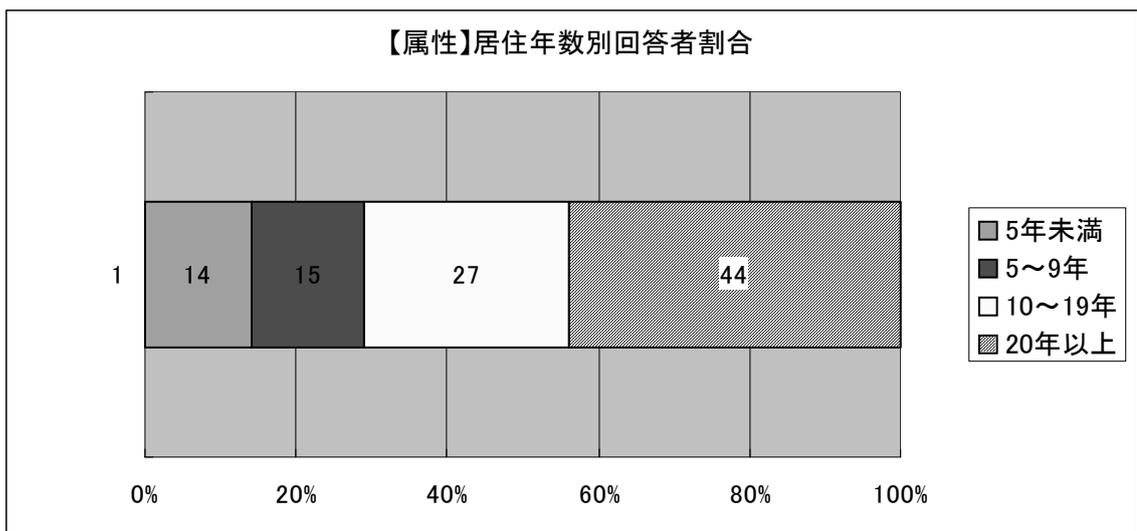
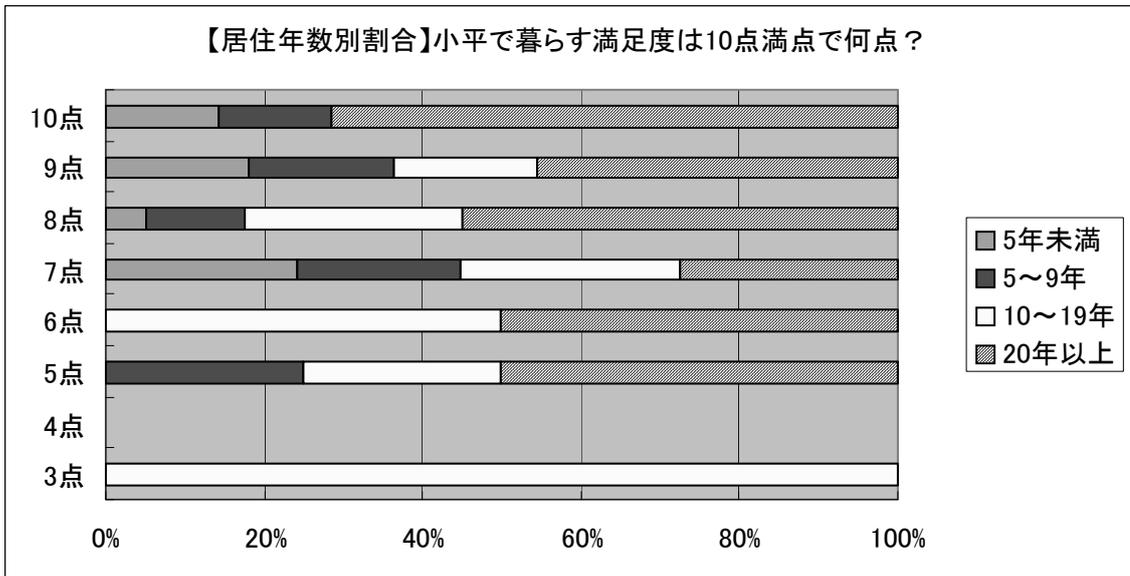


【分析】家族の人数別回答者割合と比較して、6人以上の大家族の層で満足度が高いという結果が出ています。一方で4人家族と答えた層の満足度は、比較的低くなっています。また、2人世帯の満足度がやや低く、3人世帯がやや高くなっています。

【読み取れること】6人以上の家族構成として、3世代同居家族、または両親と4人以上の兄弟の家族が考えられます。異世代交流も含め、家族間および家族を通じた地域との交流も盛んなライフスタイルが想定されます。また2人世帯は夫婦のみ、3人世帯は夫婦と子ども一人という家族構成が考えられます。子どもがいることで地域との交流が生まれたことによる満足度の向上が想定されます。そうした環境が暮らしの満足度に影響を与えているとすれば、家族に代わる地域内のコミュニティを豊かにすることが暮らしの満足度につながる可能性が見て取れます。コミュニティカフェ、居場所作りなど、コミュニティビジネスのニーズが感じられる結果です。

(4) 居住年数別暮らし満足度

高い満足度の20年以上の居住者。5年未満の層も平均点以上の評価。



【分析】居住年数別回答者割合と比較して、20年以上の居住者に満足度を10点満点と答えた割合が高いのが目立ちます。また、居住年数が10～19年の層の満足度はやや低くなっています。

【読み取れること】本調査では、回答者の40%ほどが20年以上の居住者でした。20年以上という長年暮らす層の満足度が高いことから、小平市の暮らしやすさ、生活面での充実度の高さがうかがえます。居住年数が20年以上の家族の形としては、子育てが終わった世帯を多く含むことが想定されます。

一方で、満足度の低い居住年数が10～19年の層は、中高生などを持つ子育て真っ只中の世帯が多く含まれることが考えられ、その不満のもとがどこにあるのか、その課題をとらえることが必要です。

(5) 満足度を10点に近づけるために、何があったらよいか？(自由記述)

① 商業施設の充実(意見が多かったもの)

- 近所の商店街の活性化 7件
- 近くにスーパー 6件
- おいしい飲食店、レストラン 5件
- 大型店の誘致 4件
- 素敵なカフェ 4件

② 歩道、自転車道の整備(意見が多かったもの)

- 歩道を広くしてほしい 11件
- 安全な道路(街灯を増やす含む) 4件

③ 市内の交通網の充実(意見が多かったもの)

- バス便を増やしてほしい 9件
- コミュニティバスの運行経路見直し 6件

④ 交通の整備(意見が多かったもの)

- 都心へのアクセスを便利に 5件
- 道路の整備 4件

⑤ 公園の整備(意見が多かったもの)

- ボール遊びができる公園 3件
- 広くて安心して遊べる公園 3件

⑥ その他

- 住民のネットワークづくり・交流 7件
- 駅周辺の整備 6件

※自由記述の詳細は巻末の参考資料②を参照してください。